

第5期 音威子府村総合計画

森と水と人が織りなす匠の里・おといねっふ



森と水と人が織りなす匠の里・おといねっふ



第5期 音威子府村総合計画

村長ごあいさつ



国の人口が減少する時代を迎えております。また本村では過疎化に歯止めがかからず、少子・高齢化も顕著となっております。

このような社会情勢の中「ふるさと音威子府村」を守って行くため、第5期音威子府村総合計画（平成25年度から34年度まで10年間）を策定致しました。

小さくても個性的で魅力に溢れ、地域ぐるみで協力し合う住民が集う地域づくりを基本に、目指す姿を「森と水と人が織りなす匠の里・おといねっぷ」と致しました。

この総合計画に基づき、本村の特色を活かした村づくりを中長期的展望で推進してまいります。

今後は地域間格差が一層顕著となることから、課題解決には自己責任・自己決定が必要となります。

持続可能な地域循環社会を作り上げるには、その地域住民が「人間力」を十分発揮し、互いに連携する協働体制が鍵であり、小さな成功体験を積み重ねなければなりません。

笑顔が溢れる「匠の里」実現に住民皆様のご理解と参加をお願い致します。

結びに、計画策定にあたりアンケート、ヒアリング等で多くの皆様にご協力いただきましたことにお礼申し上げます。また総合計画策定審議会（佐藤均会長）の皆様には、熱意ある議論を重ねていただき、短い時間で答申していただいた事に重ねてお礼申し上げます。

音威子府村長 佐 近 勝



目次

第Ⅰ部 序論

1. 第5期音威子府村総合計画策定の趣旨	3
1) 計画策定の目的	3
2) 計画の構成と期間	4
2. 音威子府村の現状と特性	6
1) 音威子府村の概況	6
2) 村民の声	12
3) まちづくりの課題	18

第Ⅱ部 基本構想

1. 将来像	27
1) 基本的な考え方	27
2) 将来像	27
2. 将来人口	28
3. 施策の体系	29
1) 施策の体系	29
2) 3つの基本目標と6つの施策の柱	30

第Ⅲ部 基本計画

基本目標1 自然を守り、自然を活かしたむらの活力の創造	36
1. 自然を守り、自然に学び、美しいむらを創る	36
2. 地域資源を活かした産業が活力を持つむらを創る	38
基本目標2 村民の支え合いと、快適な住みよいむらの創造	40
3. 一人ひとりが健やかで、支え合うむらを創る	40
4. 快適で住みやすいむらを創る	42
基本目標3 人が育ち・みんなが参加するむらの創造	44
5. 豊かな心と学びのむらを創る	44
6. みんなで築くむらを創る	46

第Ⅳ部 重点プロジェクト

1. 重点プロジェクトとは	51
2. 重点プロジェクトの内容	52
1) おといねっぶ・まちの駅プロジェクト	52
2) 安心・支え合いプロジェクト	53
3) エコツーリズムプロジェクト	53
4) OTOINEPPU国際化プロジェクト	54
5) 自然エネルギー再生・活用プロジェクト	54
6) 定住・移住促進プロジェクト	55
7) (仮称) むらづくり推進会議プロジェクト	56

付属資料

答申書	59
第5期音威子府村総合計画策定審議会審議委員／第5期総合計画策定委員会	60
第5期音威子府村総合計画 策定の経過	61
第5期音威子府村総合計画策定プロジェクト会議・策定審議会審議委員合同 会議&プロジェクト会議メンバー及び庁内職員の合同会議結果のとりまとめ	63
第5期音威子府村総合計画策定に係わる施策シート資料	67



1 第5期音威子府村総合計画策定の趣旨

1 計画策定の目的

平成15年に策定された第4期総合計画では村づくりのテーマを「木の匂い、わがふるさと森と匠のむら」とし、副題として「大好き音威子府～森と共に生き、いきいき輝く地域を目指して～」を掲げ、これまでむらづくりを進めてきました。

この間本村においては、依然として人口減少が進み、平成22年には人口が1,000人を切り、このままの状況が進むと、地域を維持していくことも難しくなることが懸念されます。

しかし一方、本村には村立おといねっふ美術工芸高等学校が立地し、美術や工芸を学ぶために全国から生徒たちが集まってきており、彫刻家砂澤ビッキ以来の「匠の伝統」が引き継がれています。

このように小さくても個性ある本村において、今後とも住み慣れた地域で、安心・安全に、そして村民として誇りを持って生涯暮らすことができる環境整備を推進していく必要があります。

そのためには、村を取り巻く様々な状況の変化に的確に対応しながら、自己決定と自己責任に基づく自立と、地域の特性を活かした個性あふれる魅力あるむらづくりが求められます。

そこで、これまでのむらづくりの実績を踏まえ、新たな時代に対応していくため、平成25年度から平成34年度までの10年間を計画期間とする「第5期音威子府村総合計画」を策定するものです。

第I部
序論

第II部
基本構想

第III部
基本計画

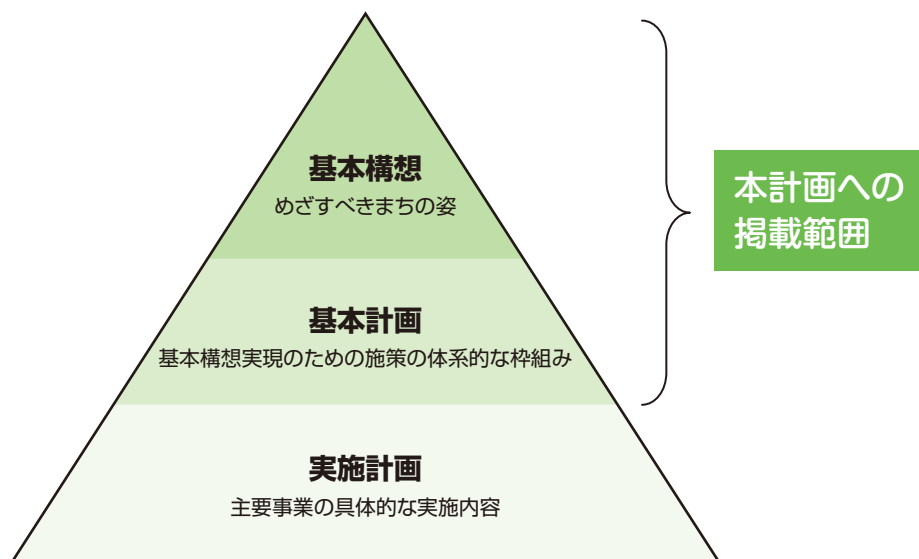
第IV部
重点プロジェクト

付属資料



計画の構成と期間

総合計画は、「基本構想」「基本計画」によって構成され、この計画に基づき、毎年、予算の確保と合わせた「実施計画」により事業が実施されます。



基本構想

行政運営を総合的かつ計画的に行う指針となるもので、本村の長期的視点からの将来像及びそれを達成するために必要な施策の大綱を明らかにするものです。

「基本構想」の計画期間は、平成25年度から平成34年度までの10年間とします。

基本計画

「基本構想」に掲げる将来像を実現するため、本村が今後10年間で取り組むべき主要な施策について、その展開の考え方を示すものです。

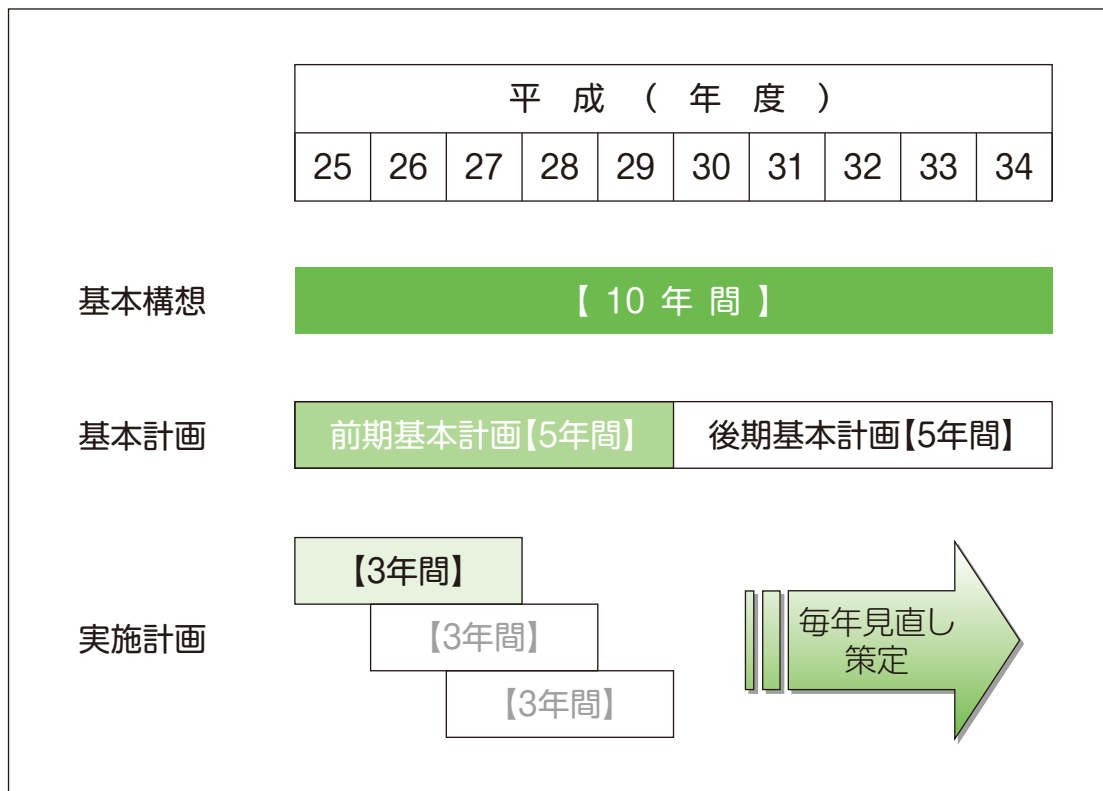
「基本計画」は、長期的視点に立った「基本構想」の実現を中期的視点から具体化するため、計画期間については、平成25年度から平成29年度までの5年を「前期基本計画」、平成30年度から平成34年度までの5年を「後期基本計画」とします。

実施計画

「基本計画」に示された主要事業の具体的な実施内容を明らかにし、本村における毎年度の予算編成・組織機構・人事計画などの運営方針となるものです。

「基本計画」に掲げられた事業の実効性を担保するため、財政計画との整合性を図りながら、具体的な事業内容・財源・実施時期などを示します。

計画期間は3年間とし、毎年度の事業の評価・検証を行いながら見直しをするPDCA*サイクルにより事業の進行管理を行うこととします。



* PDCA = Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）を繰り返して、事業を推進していく考え方です。

第Ⅰ部
序論

第Ⅱ部
基本構想

第Ⅲ部
基本計画

第Ⅳ部
重点プロジェクト

付属資料



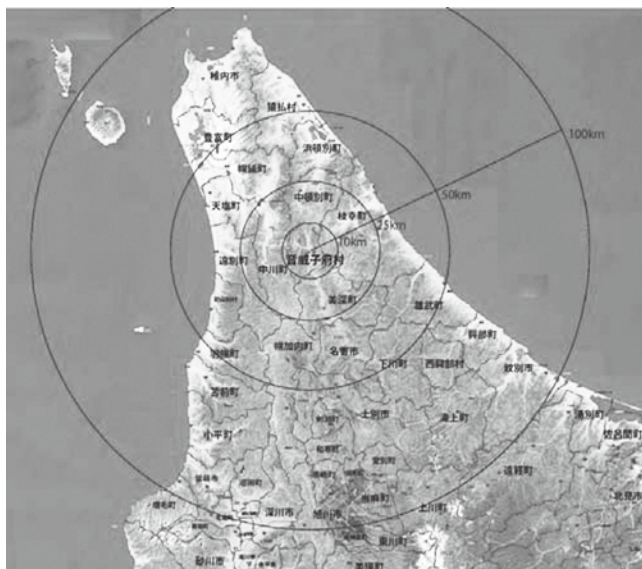
2 音威子府村の現状と特性

1 音威子府村の概況

(1) 位置

【北海道北部の丘陵地帯にある】

- 隣接市町村は、東は枝幸町、北は中頓別町、西は中川町、南は美深町と接しています。
- 旭川市から稚内市に至るほぼ中間地の丘陵地帯にあります。
- 美深町、中川町までは直線で25km圏内、名寄市までは直線で40km弱の距離にあり、生活圏として美深町、中川町、名寄市と密接な関係にあります。



(2) 自然・土地条件

【森に囲まれた寒冷地である】

- 村の中央を天塩川が貫流し河川沿いに平坦地が形成されていますが、村の8割は山林が占めています。
- 年間平均気温が6℃程度と低く、北海道の中でも寒冷地に属します。
- 北海道大学の中川研究林が立地しています。



(3) 歴史的背景

【アイヌ～入植～鉄道のまち～森と匠のまちへ】

- 地名が示すとおり「オ・トィネ・プ」はアイヌ語であり、アイヌが先住していたところです。また、「北海道命名の地」としての歴史も有しています。
- 明治後半から入植が始まり、大正に入るまでには200戸の入植がみられました。
- 大正元年の宗谷線の開通、大正3年の旧天北線の開通にともない、宗谷・天北の要衝として開発が進み、最盛期には人口の3割は国鉄関係者とその家族で占められていました。
- その後鉄道の衰退とともに人口も減少し、現在は基幹産業が農業のまちとなっています。
- 一方、彫刻家砂澤ビッキが箴島で昭和53年～平成元年までアトリエを設け活動するとともに、廃校寸前だった当時の定時制高校が、道内唯一の工芸科がある村立高等学校として再出発するなど、“工芸・匠”のまちとしての特色を生み出しています。



(4) 人口の動きと見通し

【減少傾向は依然として続いているが、高校生がいるため本村全体の平均年齢は若い】

- 昭和25年の4,185人をピークに一貫して人口は減少傾向にあり、平成22年（国勢調査）では995人となっています。
- うち、高校生が約120人占めており、高齢化率は24.7%と全国平均並ですが、高校生を除くと高齢化率は極端に高くなります。

第I部
序論

第II部
基本構想

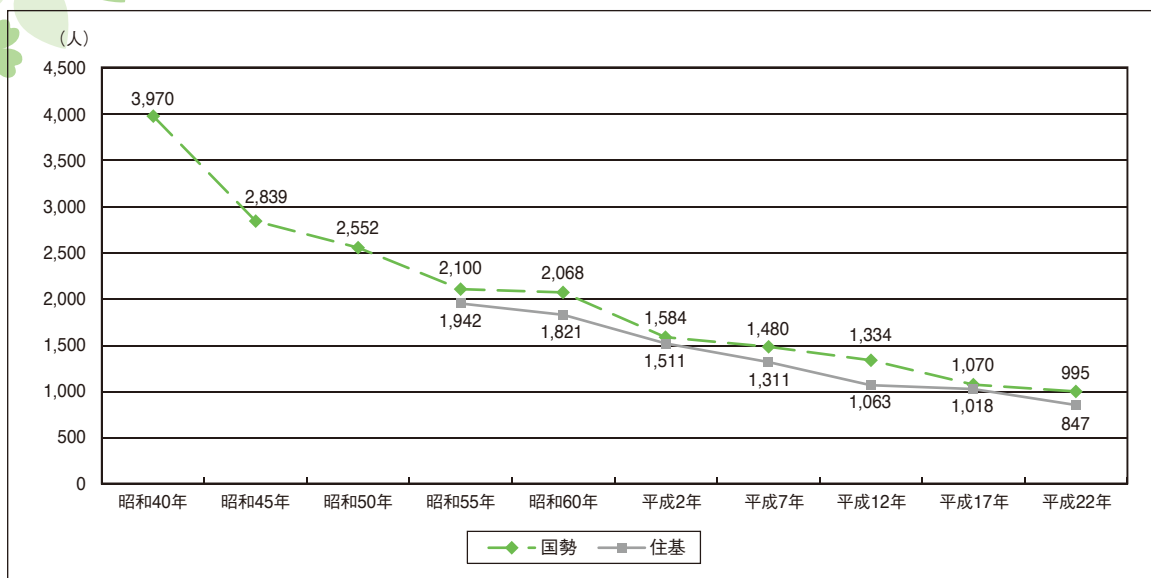
第III部
基本計画

第IV部
重点プロジェクト

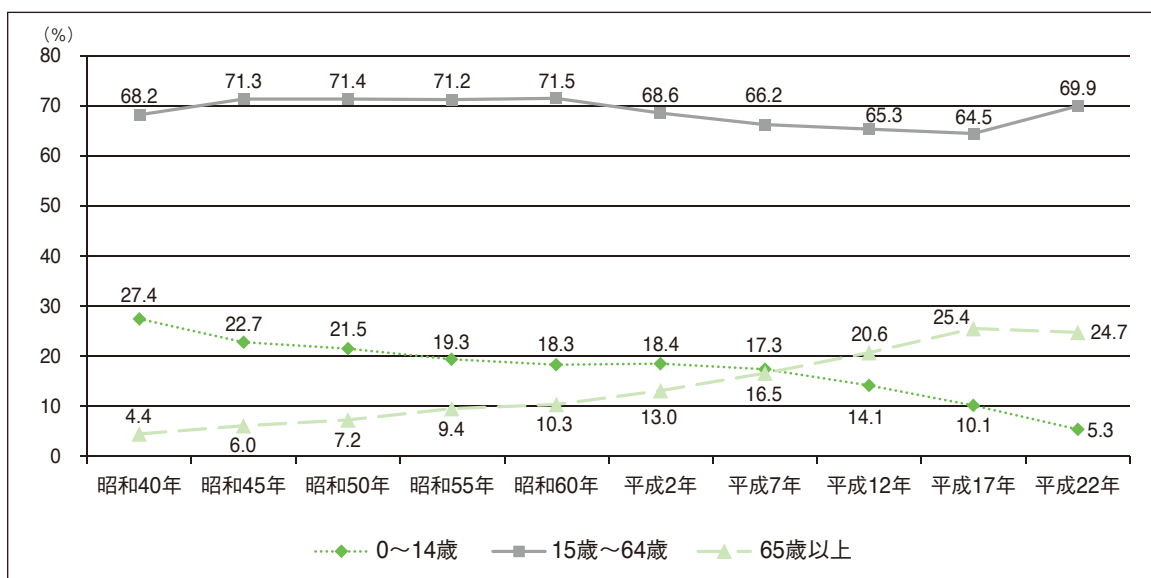
付属資料



●人口の推移



●年齢3区分の構成比



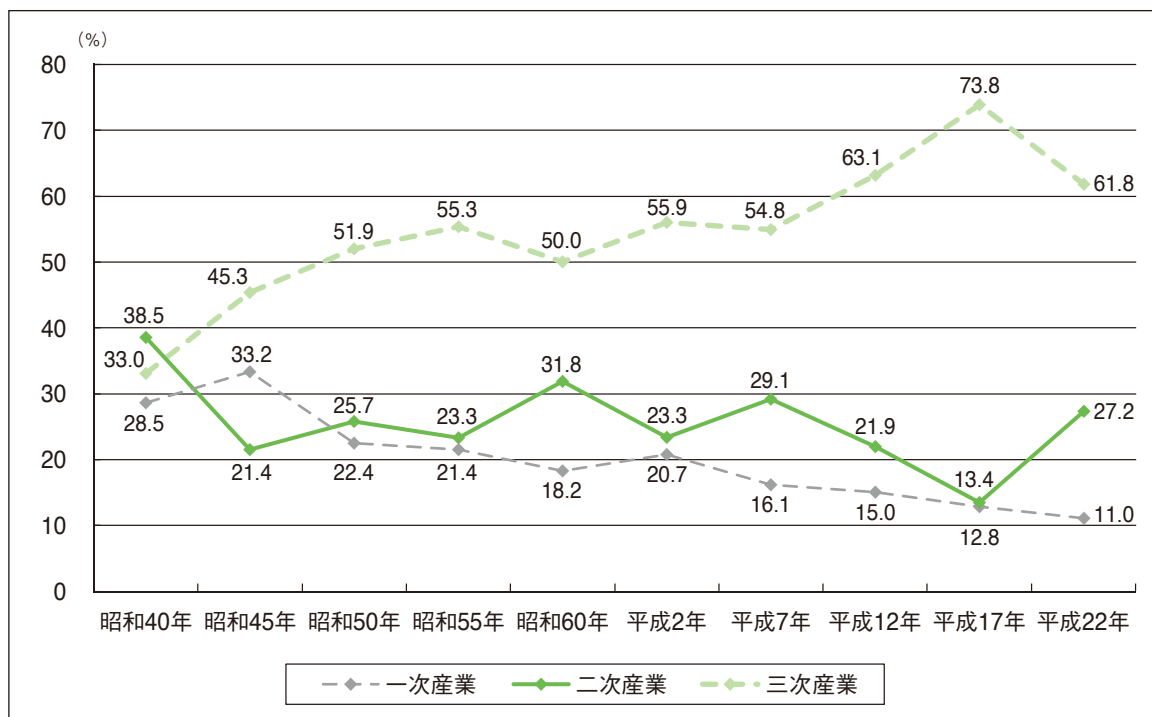
(5) 産業の特性

【基幹産業は農業であるが、徐々に後継者問題もあり衰退化している】

- 産業就業別人口比率でみると、第三次産業が60%を超え、次いで二次産業が30%未満、一次産業が10%強となっています。
- 第三次産業は公務関係の占める割合が高く、商業は脆弱です。二次産業は建設業が中心で、村の基幹産業としては、農業がその役割を担っています。
- 観光面では、温泉、スキー場等がありますが、観光客は7万人程度で推移しており、少なくとも産業としてはまだ十分には機能していません。



●産業別就業人口の構成比

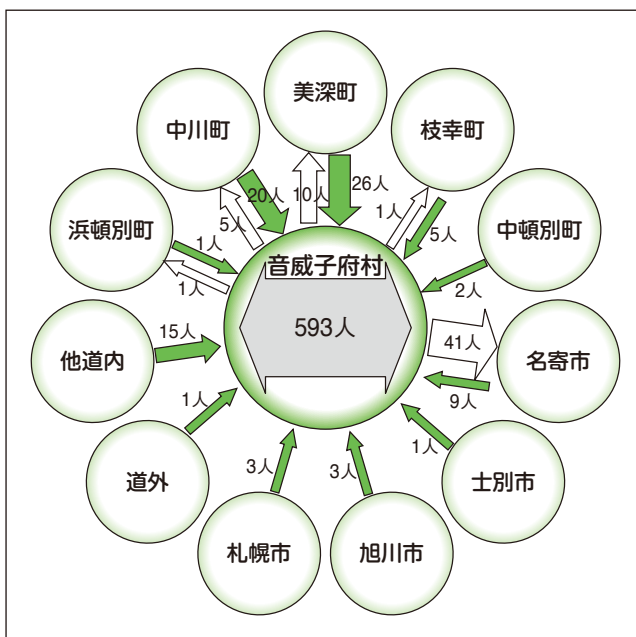


(6) 生活圏の広がり

【名寄市との繋がりが強く、その他美深町・中川町との繋がりもみられる】

- 名寄市とは約60km（道路距離）の距離にあり、日常生活や通勤等の繋がりを形成しています。
- 通勤・通学等の状況をみると（平成22年国調）、「出」では名寄市へ41人、「入」では美深町から26人、中川町から20人となっています。

●通勤・通学の状況





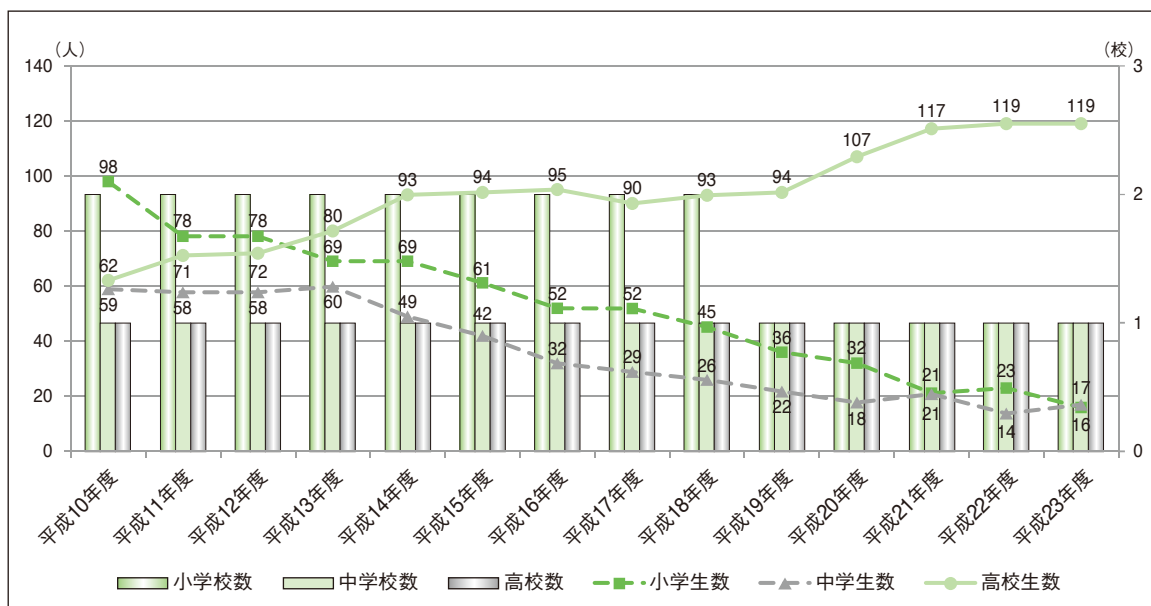
(7) 教育

【道内唯一の工芸科がある村立おといねっぴ美術工芸高等学校が立地している】

- 道内唯一の工芸科がある高等学校で、道内のみならず道外からも生徒が入学しています。
- スウェーデンのレクサンド高等学校と姉妹校にあり、相互に留学生を交換しています。
- 小学校・中学校がそれぞれ1校ありますが、平成24年9月、小・中併置校が決定され平成26年4月より現在の小学校舎を使用して小・中併置校とすることとなりました。



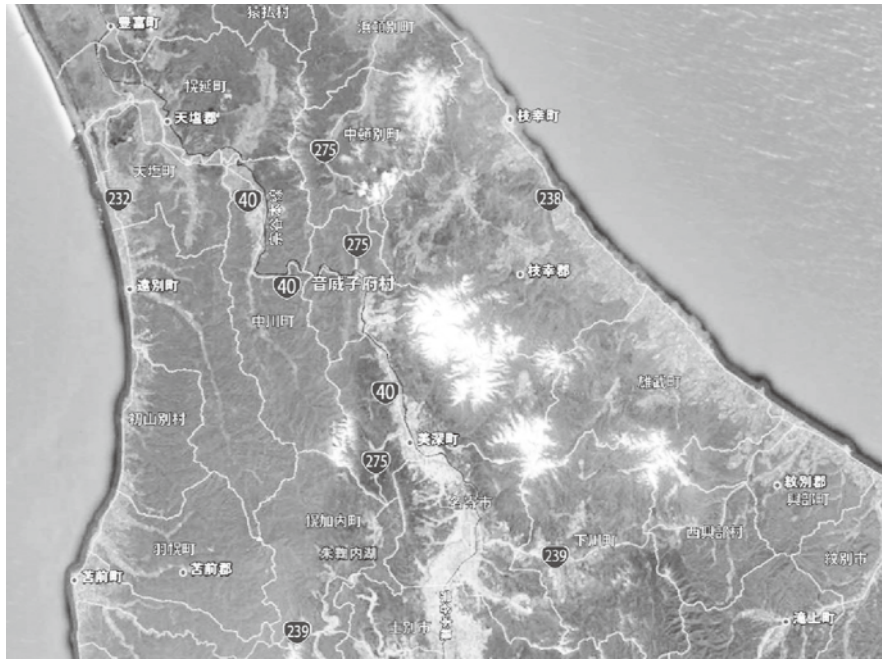
●小中高等学校数と生徒数



(8) 交通条件

【国道40号が村を縦貫し、鉄道は宗谷本線が貫通し音威子府駅には特急が停まる】

- 旭川市と稚内市を繋ぐ国道40号が縦貫して、国道275号との分岐点には道の駅が立地しています。
- 平成27年度供用を目指す国道40号音威子府バイパスの工事が着手されています。
- 鉄道は宗谷本線が通り、音威子府駅には特急が停車し、周辺地域から多くの利用があります。

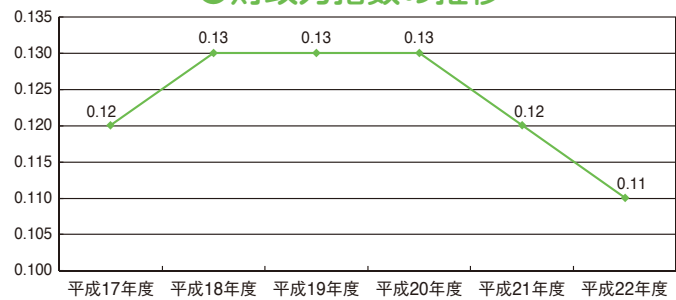


(9) 財政状況

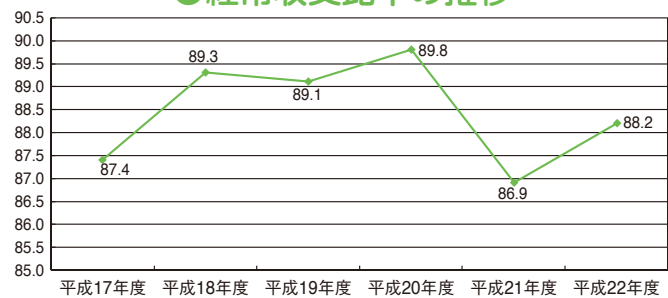
【厳しい財政状況が続いている】

- 村の歳入総額は約20億円規模で人口減と相まってやや減少気味にあります。
- 財政力指数は平成22年度0.11と非常に低く、経常収支比率は82%と一般でいう危険ゾーンとなっています。但し公債費比率は一般の目安値である10%を下回り平成22年度で7.9%となっています。

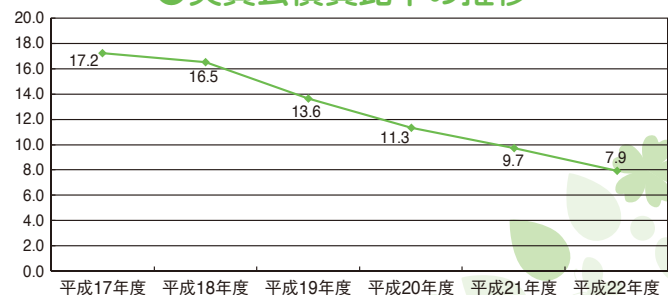
●財政力指数の推移



●経常収支比率の推移



●実質公債費比率の推移





2 村民の声

本計画策定に当たり、以下の4つの調査を行いました。

- 村民アンケート調査
- おといねっぴ美術工芸高等学校生徒アンケート調査
- 事業所アンケート調査
- ワークショップ（3グループ:第1部会「産業振興」、第2部会「保健、福祉、教育・文化」、第3部会「生活環境、地域づくり、行財政」）

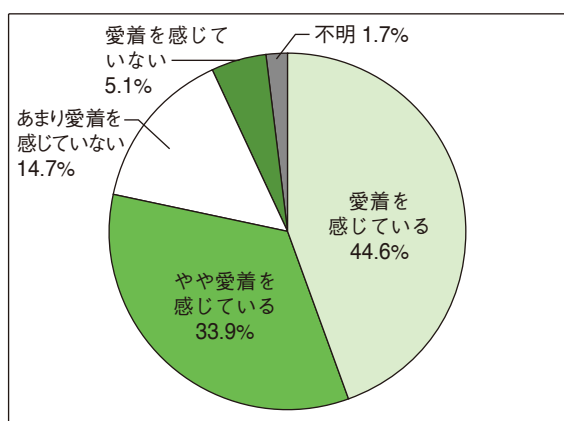
それぞれの結果概要は以下の通りです。

★村民アンケートからの特徴

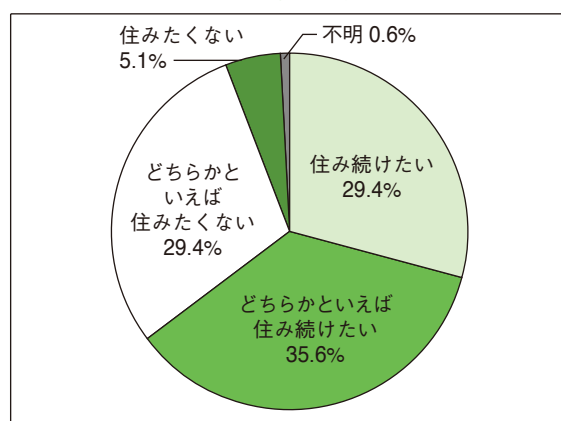
（1）地域への愛着度・満足度・定住意向

- 8割近い人が、村に愛着を感じています。
- 暮らしやすさに対する満足度については、「満足派」は52.5%と半数を超えているものの、愛着度に比べると厳しくなっています。
- 定住意向については、65%の人が住み続けたいという意向をもっていますが、住みたくない人も30%を超えており、その理由としては、雪の厳しさと買い物不便さが要因となっています。

●愛着度

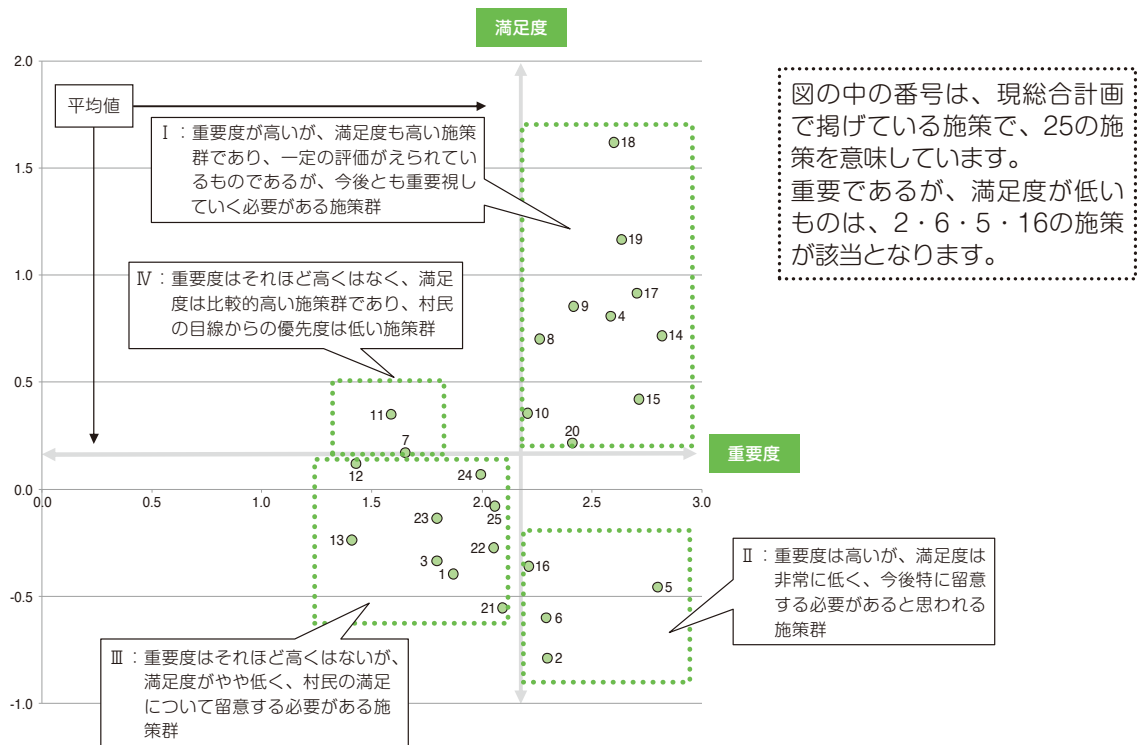


●定住意向



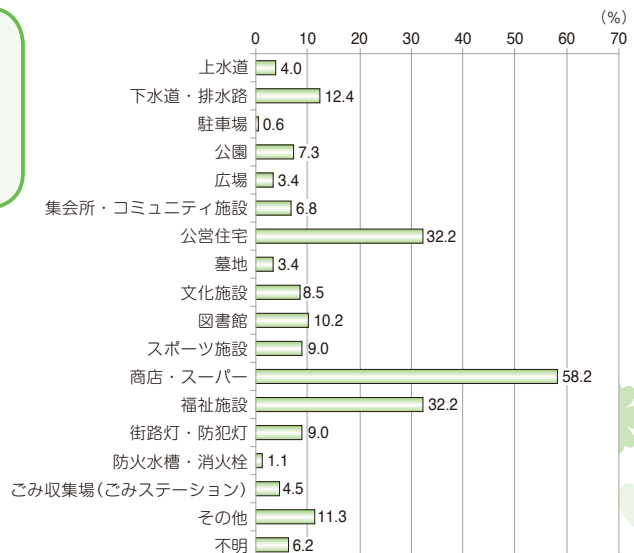
(2) 第4期総合計画の施策評価

- 重要な施策なのに満足度が低い施策群は
 - ◇ 特産品の開発等の商工業の振興
 - ◇ 子どもから高齢者まで安心して住める住環境の整備
 - ◇ 生活面での基盤環境の充実
 - ◇ 安心して子育てできる環境整備



(3) 今後整備・充実すべき施設

- 「商店・スーパー」が最も多く、次いで「公営住宅」「福祉施設」が主なものとなっています。





(4) 自由意見から村民が今後のまちづくりに望む姿

- 大きく分類すると「自然」と「特産品（そばと工芸品）」と「美術・工芸（高等学校や匠の村等を含む）」の3つの要素として捉えられます。
- 即ち、自然は音威子府村の基盤をなす環境特性であり、特に、「美術・工芸」は高等学校の存在、匠の森としての展開、さらには特産品とのからみも含め、村の大きな自慢とみることができます。
- また、村民からの意見としては交通の要衝的な位置特性に注目すべきという意見もみられます。

★高校生アンケートからの特徴

★良いところと悪いところ

- 良いところは、「自然の良さ」と「人のやさしさや温かさ」が挙げられています。村外からの高校生が大半を占めることを考えると、家族のように迎えてくれる村民の心が大きな魅力になっています。
- 悪いところは、高校生の年代から察して「買い物」等の日常的な利便性や楽しさに欠けるところの指摘が多いものの、良いところと比べるとその数は少なくなっています。

★村を元気にする方策

- 音威子府村の悪いところと連動して、「店舗やサービス施設の充実」が最も多くなっています。
- 但し、今の環境を活かし「イベント」や「観光」等の展開を図るべきという意見や、特に注目すべきは「村全体でのコミュニケーションを高める」という意見が多くみられます。村のいいところでも「人」に対する評価が高校生でも非常に高く、その良さをさらに高めていくべきという考え方とみることができます。

★自由意見

- 今の環境を大事にし、また、それを売りにし、もっと対外的にアピールしては、という意見に総括できます。
- また、高校生の意見らしく本屋さんに対するニーズが多くみられます。

★事業所アンケートからの特徴

★現在の状況・問題点

- 基本的には人口規模が少なく、市場規模が小さいことと、地理的条件や近年の経済動向や観光・サービス需要の低迷等と相まって、決して有利な条件にはない、という意見に集約されます。

★今後の対策

- 村内での自助努力は当然しなければいけませんが、村外との交流を積極的に展開し、産業需要、とりわけ観光やリゾート的な需要を高めることや、移住者の促進による定住人口の増加を少しでも高めることの指摘となっています。
- また、北海道大学中川研究林の活用を含めた音威子府村の「森」の活用という意見もあげられています。

★良いところと悪いところ

- 良いところは、村の規模は小さいが、自然環境に恵まれ、また小さいが故に相互の顔が見え、まとまりや繋がりが強いところです。
- 悪いところは、気候条件、地理的条件とともに、人口規模が小さく、若い人が少ないことが、村のパワーを保つには厳しいところです。

★村を元気にする方策

- 小さいことを逆手にとった個性づくり。
- 木工、スキー、温泉、そばといったものを積極的に活用していく施策。
- 自然環境の良さを活かし、高齢者が終の棲家となれるような村づくり。
- 子どもや若者が住める環境整備。
- 音威子府バイパス整備等、交通条件の改善を活かした振興策の検討。



★ワークショップからの提案

★村のいいところ

- 豊かな自然環境が基本財産。
- 小さな村でこそそのコミュニティ。
- そばや豊富な山菜等の地場産品。
- 特色ある、おといねっぴ美術工芸高等学校の存在。
- 特急が停まる駅の存在。

★現在抱えている問題点や課題

- 厳しい雪の条件。
- 人口の少なさと減少による地域力の低下（産業や生活・福祉等の面で）。
- 道の駅、ＪＲの駅、天塩川温泉等があるが、必ずしも十分な利用状況にない。

★今後のむらづくりの基本的な方向

- 自然環境を守ることと、その環境を十分に活かすこと。
- 小さな村だからこそ、産業、生活、福祉、人材等の個別単体ではなく“地域ぐるみ＝連携”により取り組むこと。

【キーワード】

森と匠



★主な提案

- 森林資源を活かした新たなエネルギーの導入。
- 短期移住体験の実績を活かした定住化・交流化の促進。
- 新規就農者の受け入れ体制の充実。
- 自然・農業・観光の複合的な展開によるエコツーリズムの展開。
- 公共施設・商業施設等、施設の効率的・効果的な利用の面からの再配置・整備に関する検討。
- 住民保養センター天塩川温泉の住民利用の促進対策。
- 高等学校の寮の増改築と卒業生の雇用の場の創出。
- 高齢者にもやさしい公営住宅の整備促進。
- 特別養護老人ホームの誘致と雇用対策。
- 医療体制の維持、充実。
- 特急列車が停まる音威子府駅の活用。
- 鹿や熊を「害獣」としてではなく、「食」等をキーワードに特産品の検討。
- 音威子府バイパス整備に加えパーキングエリア等の活用。



3 まちづくりの課題

(1) 時代の潮流からの課題

時代の潮流とは、私たちを取り巻く社会・経済環境において、取り組まなければならない政策的課題を含む時代の大きな変化要因を指します。この内容は、今後10年間の村政において無視できない課題であるとともに、住民の生活を考えるときに対応を求められるものです。

このような時代の潮流は、次の8つのキーワードにまとめることができます。

●時代の潮流のキーワード



地方分権の推進

地方分権は、住民に身近な行政の権限や財源をできる限り地方自治体に移し、地域の創意工夫による行政運営を推進できるようにするための取り組みです。そのためには、「自己決定・自己責任」の原則のもと、地域の実情やニーズに応じた个性的で特色のあるまちづくりや安定した行政サービスが提供できる体制づくり、権限移譲に対応できる人材の育成や確保が必要です。

本村においては、国から地方自治体への分権が進むとともに、音威子府村民の“自治力”が問われる時代となり、行政・住民の役割分担と主体性がより求められ、地域ぐるみでの取り組みがさらに必要となります。

少子高齢化の進行

我が国では、出生率の低下や平均寿命の伸長に伴って、少子高齢化が進行しており、本格的な人口減少社会に突入しています。少子化の指標である合計特殊出生率の低下と老年人口の割合の増加傾向が進む中で、地域全体で子どもを安心して生み育てることができる環境づくりや、高齢者が元気で暮らせるやさしいまちづくりのため、子育て支援や地域医療体制の整備、高齢者の健康や生きがい対策、介護保険等や医療、福祉部門における重点施策の展開が強く求められています。

本村では、少子高齢化が続き、高齢者の割合がかなり高くなります。今後は、元気な高齢者に積極的に社会参加してもらう仕組みづくりとともに、“新・音威子府村民”としての転入・移住対策も重要となります。

地球環境問題の深刻化

人間の諸活動に伴うエネルギー消費の増大等により、地球的な規模において様々な環境問題が引き起こされています。地球環境問題は人類共通の課題であり、経済産業活動から住民生活に至るあらゆる分野での対応が不可欠となっています。「地球規模で考え、足元から行動する」という環境保全の行動理念のもと、環境負荷の少ない生活スタイルの実践が求められています。

本村は優れた自然環境を有した村です。貴重な自然環境を守るとともに、自然を楽しみ、自然と共生する我が国を代表するような“モデル村”的な展開が求められます。



安全で安心な社会の構築

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、自然に対する考え方やそれに伴い引き起こされる様々な災害の発生に対して、いかに日頃からの対策や地域住民の繋がりが重要であるかということを教訓として示しました。また、自然災害だけでなく、ウィルス等による健康被害、あるいは子どもや高齢者を狙った犯罪等、日常生活に潜む、安全や安心を阻害する要因の多さや大きさに改めて気付かされているところです。このため、住民や地域、行政が連携・協働して防犯・防災の維持や衛生管理等に努め、誰もが安心して暮らせる安全なまちづくりへの取り組みが必要です。

本村では、住んでいる人の安全・安心を確保することは基本であり、誰もが安心して暮らせるまちづくりや、安全な村としてのアピールは移住や定住の大きな条件となります。

地域間競争時代への対応

各所において企業誘致や観光振興をはじめ、様々な分野で地域間の競争が激しくなっています。今後とも活力ある地域として発展していくためには、他の地域にはない特色ある魅力づくりを、より一層強力に進めていく必要があります。

本村では、個性的で活力あるむらづくりを進めるために、より音威子府村の魅力を高めていく必要がありますが、一方住民の生活圏の広がり等も含め、美深町や中川町等の周辺地域との連携による広域的な魅力づくりも重要な視点となります。

高度情報化の進展

インターネットをはじめとするネットワークの拡大や携帯電話の急速な普及等、情報通信技術の飛躍的な進歩は、現代社会のあらゆる分野に大きな変革をもたらしています。こうした流れは、今後ますます加速することが予想され、「情報」は私たちの日常生活に必要不可欠な生活基盤となっています。このため、こうした高度情報化の進展に対応した高度情報通信基盤の整備・充実とともに、情報通信手段を活用した行政サービスの提供に取り組む必要があります。また一方で、高度情報化には馴染みにくい人々がいることにも配慮する必要があります。

本村は、情報化により、音威子府村の立地の不利性を克服するとともに、一方で、小さな村の特性を活かした、よりヒューマンなスケールでの人と人との繋がりにも十分配慮していく必要があります。

国際化の進展

国際化の動きは、経済面のみならず、観光や文化、スポーツ、学術等様々な分野で大きく進展しています。また、地球環境という観点からも、資源やエネルギー問題等、単一の国の問題ではなく、地球規模で捉える必要が出てきています。21世紀は国際交流の時代ともいわれ、国際化の進展は地球の平和活動にも大きく寄与することが期待されています。

本村は、スウェーデンのレクスサンド高等学校との交流実績を活かし、さらに進化した国際化の取り組みが、村の個性を形成する面から重要となります。

財政状況への対応

現在、国や地方ともに極めて厳しい財政状況に直面している中、地方自治体は今後もさらに厳しい財政運営が避けられない状況にあります。

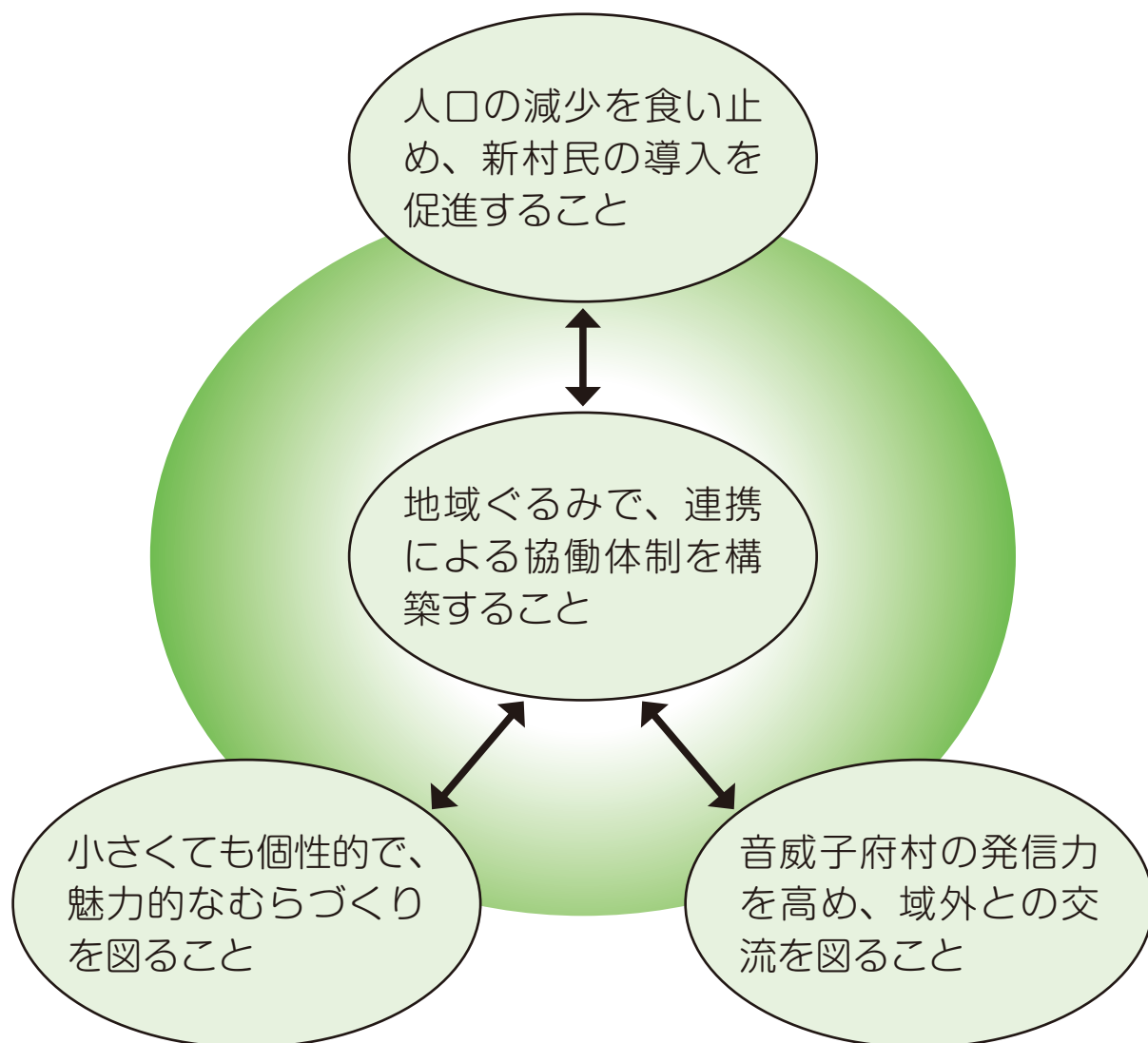
本村においても、村の財政は決して良好な状態にはなく、住民のコンセンサスを得ながら効率的・効果的な行財政運営が必要であるとともに、重点的・戦略的な投資配分の観点も重要となります。



(2) これからのむらづくりの課題

【基本的な課題】

- 今後のむらづくりの基本的な課題は次の点であり、これらの課題は相互に関連しています。今後のむらづくりには、これらの課題に対し複合的に取り組んでいくことが重要となります。



【基本課題に対応した検討すべき視点】

①人口の減少を食い止め、新住民の導入を促進すること

- 村民の福祉を高め、誰もが生涯安心して暮らせるむらづくりを推進すること。
- 音威子府村の環境を求めてくる新しい村民の受け入れ環境を整えること。

②小さくても個性的で、魅力的なむらづくりを図ること

- 高校の立地を活かした“匠のむら”として、魅力ある環境を創ること。
- 音威子府方式ともいうべき自然環境との共生や、地域間・産業間を結び付けていく“循環・連携型”システムづくりを進めること。

③音威子府村の発信力を高め、域外との交流を図ること

- 音威子府村の環境（資質）を活かした観光・交流の展開を図ること。
- 音威子府ブランドの形成を図ること。

④地域ぐるみで、連携による協働体制を構築すること

- 村民の自治力を高め、共助による支え合いを推進すること。
- 村民・行政・教育機関・企業等の協働体制を強化すること。





1 将来像

1 基本的な考え方

今後のむらづくりの基本的な考え方は、小さなむらだからこそ、それぞれの『人間力』を発揮し、むらの全ての資源を『地域力』として活かし、むらとしての『循環力』を高め、コンパクトで自立性の高いむらづくりが重要と考えます。



第I部
序論

第II部
基本構想

第III部
基本計画

第IV部
重点プロジェクト

付属資料

2 将来像

音威子府村は、第4期総合計画で、“森と匠”をキーワードに掲げむらづくりを進めてきました。今回のアンケート調査やワークショップ等の会議を通して、この“森と匠”というキーワードは住民に深く浸透しています。

よって、将来像については、「森と匠」の言葉は引き継ぎ、音威子府の最大の特徴である森林と天塩川、更には温泉といった水資源も表に出し、その自然環境の中で、新たな村人（転入者）も受け入れ、みんなで個性ある匠の里を創っていかうという考え方にたち、次のものを将来像とします。

森と水と人が織りなす匠の里・おといねっぶ

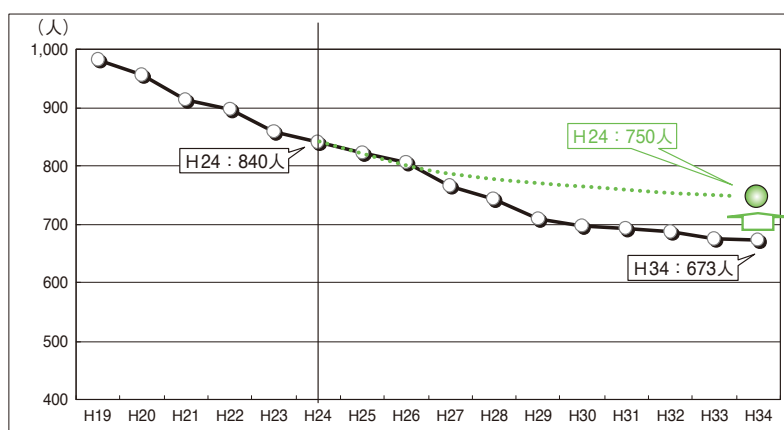


② 将来人口

人口については、これから10年間のトレンドを踏まえ、新たな政策努力による目標人口として設定します。

人口フレームは、将来の村の人口を想定し、それに対する各種の環境整備の目安をたてていく指標となるものです。

本村の人口は、減少傾向が続いています（平成24年4月末：住民基本台帳：840人）。このままの傾向が続いたとすると、本計画の目標年である平成34年には670人程度と見通されます。全国的な少子高齢化の中で、本村もその例外ではなく人口の減少は避けられないものと思われませんが、その減少傾向を今後の施策努力で80人増やし750人と設定します。



平成24年の人口840人に対し、平成34年の人口750人というのは、現在より90人減少するということではなく、このままであれば670人になることを、今後の施策努力で80人増やしていくという考え方です。



総人口

平成24年
840人
平成34年
750人

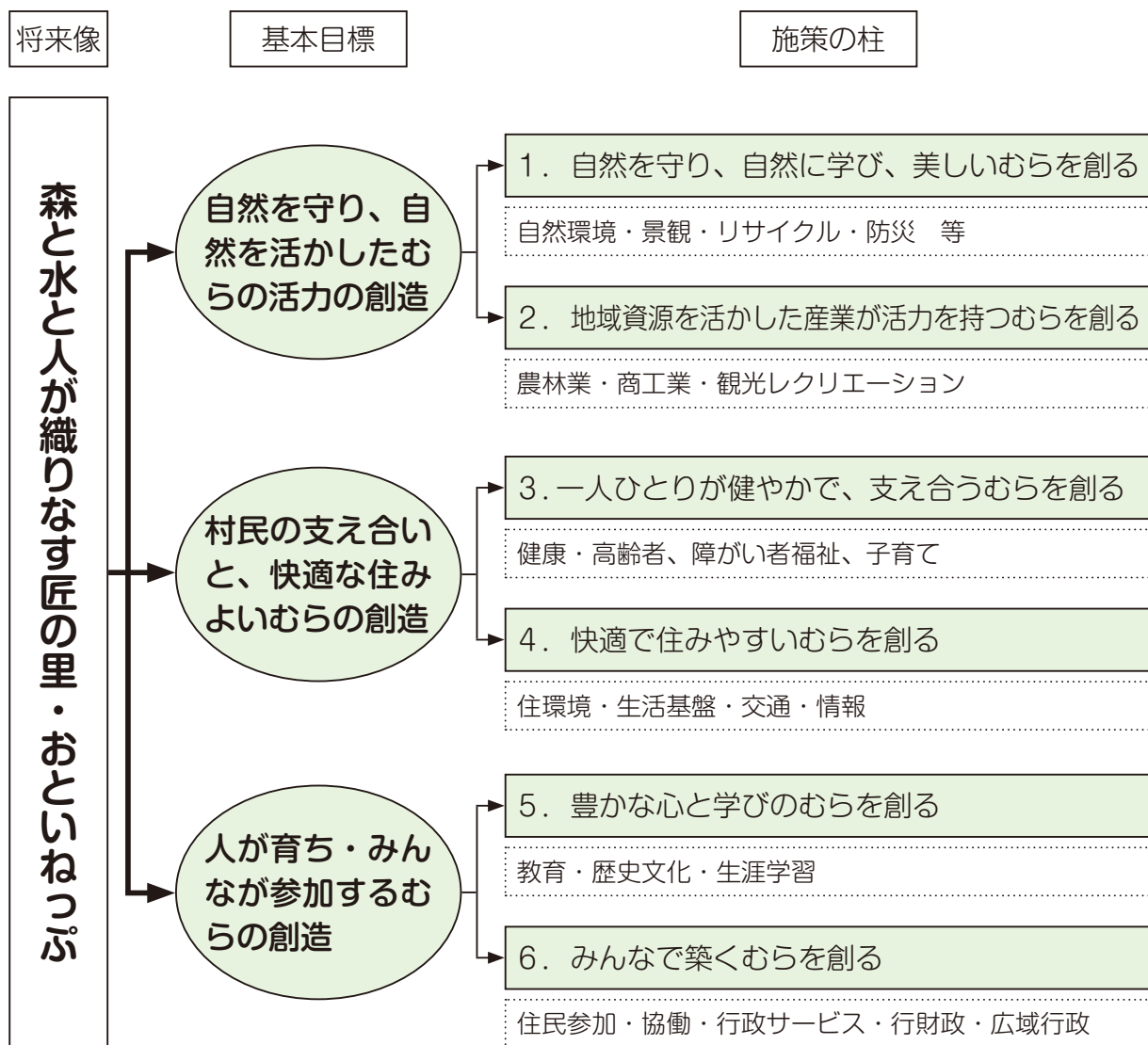
年齢階層別

	現況		将来	
	平成24年		平成34年	
	人	%	人	%
総人口	840	100.0	750	100.0
0～14歳	46	5.5	50	6.7
15～64歳	566	67.4	465	62.0
65歳以上	228	27.1	235	31.3

③ 施策の体系

1 施策の体系

施策の体系は、3つの基本目標と6つの施策の柱で構成します。



第I部
序論

第II部
基本構想

第III部
基本計画

第IV部
重点プロジェクト

付属資料



2 3つの基本目標と6つの施策の柱

基本目標1 自然を守り、自然を活かしたむらの活力の創造

本村の基本は“自然”であり、この自然を守ること、またこの自然から学ぶこと、そして、この自然を活かした音威子府村ならではの産業を再活性化させていくことが求められます。

そのための施策の柱は次のものとします。

1. 自然を守り、自然に学び、美しいむらを創る

貴重な自然環境を保全するとともに、この自然環境を村民や村を訪れる人々に楽しんでもらえるよう、美しいむらづくりに努めます。

また、環境負荷を減らす暮らしの運動や、自然を活用したエネルギーの研究等、自然との共生を村ぐるみで推進します。

一方、この自然は時として災害をもたらす要因になることもあり、ハード的な面のみならず、村民相互の救助体制等の防災体制の取り組みに努めます。

主要施策

- (1) 次世代に引き継ぐ自然環境の保全
- (2) 森とともに生きる美しいむらづくり
- (3) 環境負荷の軽減と自然エネルギーの活用
- (4) 災害から村民の命を守る

2. 地域資源を活かした産業が活力を持つむらを創る

本村の基幹産業は農業です。しかしながら従事者の高齢化や不足等により、徐々にその力が弱まっていることから平成24年度には農業振興基本条例を制定し、新規就農者の受け入れ体制の整備とともに、農産物を活かした付加価値の高い地場産品の開発等に努めていきます。

また、6次産業と言われるように「1次+2次+3次=6次」の産業連携を高めていく必要があります。平成25年度には商業振興基本条例の制定を目指し、その潤滑油として観光の役割は大きく、自然環境とともに農業や、地域の資源を全て観光資源として捉え「農商工連携」の展開を図っていきます。

主要施策

- (1) 足腰の強い農林業の基盤整備と新規参入者の促進
- (2) 地場産品開発による付加価値の高い商工業の振興
- (3) 地域資源を活かした観光レクリエーションの展開

基本目標2 村民の支え合いと、快適な住みよいむらの創造

本村は小さな村ですが、だからこそ村民相互の顔が見え、理解し合えるコミュニティづくりが可能となります。また、安心して暮らすことができるよう、住宅を含めた生活環境の整備や、交通システムの充実が求められます。

そのための施策の柱は次のものとします。

3. 一人ひとりが健やかで、支え合うむらを創る

子どもから高齢者まで、また、障がいのある無しに係わらず誰もが健康に、生きがいを持って暮らせる仕組み作りに努めます。

また、村の宝でもある子どもを産み・育てやすい村としての環境整備を、村民みんなの力で形成していきます。

主要施策

- (1) 生涯を通じて健康で自立した生活の確保
- (2) 誰もが生きがいを持って暮らせる仕組みづくり
- (3) 安心して子どもを産み育てることができる環境整備

4. 快適で住みやすいむらを創る

高齢になっても安心して暮らせる住環境や生活基盤の充実に努めます。また、村民の足として、あるいは村を訪れやすくするための条件としての広域交通ネットワークの整備に努めるとともに、暮らしの一つの基盤ともなっている情報・通信環境の充実を図ります。

主要施策

- (1) 誰もが安心して暮らせる住環境の整備
- (2) 暮らしを支える生活基盤の充実
- (3) 交流を支える広域交通ネットワークの整備
- (4) 村と村民、村民相互間の情報化の促進



基本目標3 人が育ち・みんなが参加するむらの創造

次代の村を担う子どもたちの教育環境の充実と、本村の大きな特色であるおといねっぴ美術工芸高等学校を活かしたむらづくりが重要となります。

また、小さなむらだからこそ全員参加型のむらづくりの体制を構築するとともに、効率的・効果的な行財政運営が求められています。

そのための施策の柱は次のものとします。

5. 豊かな心と学びのむらを創る

小中高等学校が一体となって、子どもの教育環境の充実に努めると共に、本村の顔ともいえるおといねっぴ美術工芸高等学校を村全員で見守り育てていきます。

また、音威子府の歴史文化をみんなで共有し、生涯にわたって学ぶことができる環境整備を図ります。

主要施策

- (1) 自主性と協調性を育む教育環境の整備
- (2) 村の顔となる高校づくり
- (3) 先人が残した歴史文化の継承と活用
- (4) 世代間・地域間交流による生涯学習の推進
- (5) 村民一人ひとりが先生となる人材育成

6. みんなで築くむらを創る

全員参加のむらづくりを基本とし、協働の仕組み作りを充実させていきます。そのためにも、行政サービスの充実に努めるとともに、行財政の改革をさらに進め、めりはりの効いた事業実施に努め、効率的・効果的な村としての経営を推進します。

主要施策

- (1) 住民参加・活動への支援
- (2) 協働の仕組みづくり
- (3) 村民への行政サービスの充実
- (4) 効率的・効果的な行財政の運営
- (5) 広域的な連携・協力体制の充実



施策一覧

基本目標	施策の柱	主な施策
〈基本目標1〉 自然を守り、 自然を活か したむらの 活力の創造	1 自然を守り、自然に 学び、美しいむら を創る	(1) 次世代に引き継ぐ自然環境の保全
		(2) 森とともに生きる美しいむらづくり
		(3) 環境負荷の軽減と自然エネルギーの活用
		(4) 災害から村民の生命を守る
	2 地域資源を活かした 産業が活力を持つむ らを創る	(1) 足腰の強い農林業の基盤整備と後継者育成、 新規参入者の促進
		(2) 地場産品開発による付加価値の高い商工業 の振興
		(3) 地域資源を活かした観光レクリエーション の展開
〈基本目標2〉 村民の支え 合いと、快適 な住みよい むらの創造	3 一人ひとりが健やか で、支え合うむらを 創る	(1) 生涯を通じて健康な自立した生活の確保
		(2) 誰もが生きがいを持って暮らせる仕組みづ くり
		(3) 安心して子どもを産み育てることができる 環境整備
	4 快適で住みやすいむ らを創る	(1) 誰もが安心して暮らせる住環境の整備
		(2) 暮らしを支える生活基盤の充実
		(3) 交流を支える広域交通ネットワークの整備
		(4) 村と村民、村民相互間の情報化の促進
〈基本目標3〉 人が育ち・ みんなが参 加するむら の創造	5 豊かな心と学びのむ らを創る	(1) 自主性と協調性を育む教育環境の整備
		(2) 村の顔となる高等学校づくり
		(3) 先人が残した歴史文化の継承と活用
		(4) 世代間・地域間交流による生涯学習の推進
		(5) 村民一人ひとりが先生となる人材育成
	6 みんなで築くむらを 創る	(1) 住民参加・活動への支援
		(2) 協働の仕組みづくり
		(3) 村民への行政サービスの充実
		(4) 効率的・効果的な行財政の運営
		(5) 広域的な連携・協力体制の充実

第I部
序
論

第II部
基本構
想

第III部
基本計
画

第IV部
重点プ
ロジェ
クト

付
属
資
料



基本目標1 自然を守り、自然を活かしたむらの活力の創造

1. 自然を守り、自然に学び、美しいむらを創る

背景

本村の最も大きな財産は自然環境です。本村のシンボルともいえる森林と天塩川は、その多面的な機能により、長い間村民の営みに大きな恩恵をもたらし続けてきました。

一方で、村民は豊かな自然がごく身近にあるため、これらの保全や活用への意識や対応が必ずしも十分とはいえない面も見受けられます。

今後は、自然を守ることを含めた安全なむらづくりという視点から森林や河川を適切に管理するとともに、豊かな自然環境との共生をめざし、新たな自然エネルギーへの取り組みなど、音威子府村の自然を十分に活かした取り組みを進め、それらを次の世代に引き継ぐことが求められます。

施策の組み立て

施策の組み立ては次のものとします。

自然を守り、自然に
学び、美しいむらを
創る

- (1) 次世代に引き継ぐ自然環境の保全
- (2) 森とともに生きる美しいむらづくり
- (3) 環境負荷の軽減と自然エネルギーの活用
- (4) 災害から村民の命を守る

主な施策の内容

(1) 次世代に引き継ぐ自然環境の保全

森林や河川が有する多面的機能により、国土の保全や環境との共生、資源の循環など、豊かな自然からの恩恵の維持を図ります。

- 治山計画の策定
- 河川愛護運動の推進
- 森林や河川などの魚類、動植物や自然環境の適切な保全

(2) 森とともに生きる美しいむらづくり

村民が森や水辺とともに生きる美しい村づくりに向け、良好な自然環境の維持及び推進を図ります。

- 河川改修・維持管理、水辺空間整備、公園等整備（国及び道への要望）
- 不法投棄などの取り締まり強化
- 廃屋等、景観を損なう障害物等の撤去促進
- 村有林や川を活かした遊歩道等の整備

(3) 環境負荷の軽減と自然エネルギーの活用

環境への負荷を軽減する暮らしの運動やバイオ技術開発を進め、自然の持つ生命力や生態系の維持を図ります。

- ごみの分別収集品目の追加
- レジ袋の減量化推進
- エコマーク商品購入やLED電球使用の奨励
- 木質バイオマス(チップ)等の活用による音威子府型自然エネルギーの検討及び実証

(4) 災害から村民の生命を守る

地域における防災に対する意識の向上と高齢・福祉社会に対応できる緊急支援体制の整備を図ります。

- 災害の未然防止
- 洪水や地震災害等に備えた避難訓練等の充実
- 災害発生時に備えた体制整備と情報通信基盤の充実
- 救急体制の充実
- 消防団員の定数確保、消防車両の更新
- 防災計画の見直し



2. 地域資源を活かした産業が活力を持つむらを創る

背景

本村では畑作と酪農が営まれています。作業効率の低い土地が多く、高齢化や農業情勢への不安などから、離農跡地等の遊休化が懸念されています。

今後は、農地の利用拡大や担い手の確保、農業関係機関との連携等による合理化や畑酪連携による堆肥の有効活用等により、環境と調和した安全、安心な農業の推進を図る必要があります。

森林資源についても、資源の枯渇や林業生産性の悪化、不在地主の問題もあり、状況に応じたきめ細かい森林施業を行う必要があります。

また、商工業の面では、人口規模が小さい本村では厳しい環境にはありますが、農業と結びついた地場産業や、観光の展開による来訪者の獲得といった、産業間の連携を高める対策が求められています。

特に観光の面では、天塩川温泉やスキー場といった自然資源を活かした施設整備がなされ、クロスカントリーについては全国大会が開かれています。また、砂澤ビッキの作品を収めたエコミュージアムおさしまセンターや高橋昭五郎彫刻の館といった、芸術・文化資源等、音威子府村ならではの資源環境を有しており、今後これらの資質を積極的に活かす方策が求められています。

施策の組み立て

施策の組み立ては次のものとします。

地域資源を活かした
産業が活力を持つむ
らを創る

- (1) 足腰の強い農林業の基盤整備と後継者育成、新規参入者の促進
- (2) 地場産品開発による付加価値の高い商工業の振興
- (3) 地域資源を活かした観光レクリエーションの展開

主な施策の内容

(1) 足腰の強い農林業の基盤整備と後継者育成、新規参入者の促進

農林業の高収益化、地域の自然環境の保全、担い手の受け入れ・育成などを総合的に進め、農林業の活性化と経営維持を図り農村の社会構造を守ります。

- 特産物導入振興事業
- 後継者の育成、新規就農者（既存企業等の参入含）の受け入れ態勢整備と推進

- 土づくり及び土地基盤整備の推進
- 有害鳥獣対策の強化推進と特産品開発等の調査研究
- 森林整備計画の策定
- 森林経営計画の策定
- 自生作物の調査研究と採取に関する啓蒙啓発

(2) 地場産品開発による付加価値の高い商工業の振興

商工業の経営安定化を図り、魅力ある店舗づくりを目指し、商工業の振興を図ります。併せて音威子府村の特色ある地場産品の開発やブランド化を目指し収益増を図ります。

- 地場産品の商品化検討
- 地場産品の販売促進
- 人材育成、生産販売体制の整備
- 地域に密着した商業の振興
- 「道の駅」を核とした地域振興の推進
- 企業誘致の推進
- 農商工連携による6次産業の確立と雇用創出

(3) 地域資源を活かした観光レクリエーションの展開

森林、河川、雪といった自然環境資源とともに、農業との連携や、「匠」の技術の活用といった、地域の多様な資源を活用するとともに、観光を介した産業間の連携を促進します。

- 天塩川温泉の利用促進（観光とともに住民の健康・福祉拠点としての活用）
- スキーやクロスカントリー等の需要の誘発（合宿等）や、選手育成機能の強化
- エコミュージアムや彫刻の館等芸術・文化施設の内容充実とPR強化
- 村及び観光スポット等のPR、案内・誘導機能の強化（魅力発信含）
- 体験型観光のプログラム開発及びガイドの育成
- 農産物等直売所の設置
- 産直等の催事企画・実施
- 観光を介した1次・2次・3次の産業間連携組織の構築の検討



基本目標2 村民の支え合いと、快適な住みよいむらの創造

3. 一人ひとりが健やかで、支え合うむらを創る

背景

本村では、少子高齢化が進み、介護や地域の協力を必要とする高齢者が着実に見込まれることから、生活習慣の改善や病気や老化の予防など、村民の自立を促すしくみや体制づくりが求められます。

一方、まだまだ現役で働ける元気な高齢者も着実に増加しており、これらの村民が単に余暇を過ごすだけでなく、村の一員として社会に貢献できる活躍の場の提供が求められます。

また、少子対策として、働くお母さんでも安心して子育てできる環境づくりも図る必要があります。

施策の組み立て

施策の組み立ては次のものとします。

地域資源を活かした
産業が活力を持つむ
らを創る

- (1) 生涯を通じて健康な自立した生活の確保
- (2) 誰もが生きがいを持って暮らせる仕組みづくり
- (3) 安心して子どもを産み育てることができる環境整備

主な施策の内容

(1) 生涯を通じて健康な自立した生活の確保

健康や医療に関する指導・支援体制やしくみの充実を図り、村民の『自立』を促すサービス供給体制への整備・充実を図ります。

- 村民一人ひとりの生活習慣への関心の啓発
- 村民健康相談事業の拡充
- 生活習慣病予防教室の充実
- 総合健康管理システム事業の充実
- 音威子府村立診療所の充実
- 各種検診（特定検診・がん検診等）事業の充実

- 保健福祉センターの有効活用
- 天塩川温泉やスキー・クロスカントリー等地域資源を活かした住民の健康増進活動の促進

(2) 誰もが生きがいを持って暮らせる仕組みづくり

高齢者や障がい者を含む全ての村民が、安心して暮らせ、地域社会の一員として生きがいを持って村づくりに関われるしくみづくりを図ります。

- ホームヘルプサービス等在宅サービスの充実
- 福祉ボランティア、ヘルパーの育成
- 身体機能の向上・回復等をめざした訓練・教室等の充実

(3) 安心して子どもを産み育てることができる環境整備

共働きの家庭でも安心して子育てができる保育体制の整備と、児童の健全育成を進めるための支援体制の充実を図ります。

- 保育制度の充実
- 子育て支援ネットワークの設置検討
- 子育てサークルの育成と支援
- リーダー養成のための学習機会の提供
- 親子ふれあい活動の推進
- 幼児センターの充実



4. 快適で住みやすいむらを創る

背景

本村の少子高齢化や人口の減少は依然として進んでおり、その進行と共に住宅や商店の老朽化等、多様な問題が顕在化しつつあり、暮らしやコミュニティを支える基礎的な機能の維持が課題となっています。

村民の豊かな暮らしを実現するために、生活環境やその他のニーズへの的確な対応が求められています。

施策の組み立て

施策の組み立ては次のものとします。

快適で住みやすい
むらを創る

- (1) 誰もが安心して暮らせる住環境の整備
- (2) 暮らしを支える生活基盤の充実
- (3) 交流を支える広域交通ネットワークの整備
- (4) 村と村民、村民相互間の情報化の促進

主な施策の内容

(1) 誰もが安心して暮らせる住環境の整備

人口の減少、高齢化や高度情報化に対応した生活形態や地域特性に対応した住宅施策を推進し、住民ニーズに即した快適な住環境の整備を図ります。

- 高齢者に対応した公的住宅の整備
(サービス付き高齢者住宅・見守りつき高齢者住宅等々)
- 個人住宅の高齢化対応の促進(住宅改修等の推奨)
- 住生活基本計画による住環境の整備
- 除排雪対策の整備・強化
- まちづくり計画等の策定
- 公営住宅の新築戸数の増強
- 快適な住環境の整備
- Iターン/Uターン者の受け入れ態勢の整備



(2) 暮らしを支える生活基盤の充実

地域の足となる地域バスや、水道、受信施設、公共施設などの整備を進め、村民の安定した暮らしの実現を図ります。

- 村内を運行する地域バスの継続
- テレビ共同受信施設の維持及びラジオ難聴解消の検討
- 「音威子府村公共施設整備計画」の年次的実施と見直し
- 商業機能の維持
- 郡部等、上下水道の年次的整備の検討促進

(3) 交流を支える広域交通ネットワークの整備

住民の日常生活や経済活動を支える道路網を整備し、鉄路の活性化を図り、都市との多様な交流が容易となる広域の道路・鉄路の交通ネットワークの確立を図ります。

- 国道40号音威子府バイパス及び国道275号の整備、早期供用開始と関連施設の整備促進
- 宗谷本線の活性化、拠点駅としての機能充実
- 公共交通機関の確保及び整備に関する近隣市町村との連携強化

(4) 村と村民、村民相互間の情報化の促進

村民誰もが親しめる広報紙の充実、高度情報化社会に対応したホームページの活用を促進し、村民により身近な広報活動の展開を図ります。

- 村ホームページの内容充実
- 村広報紙の充実
- パソコン・インターネット利用の普及促進



基本目標3 人が育ち・みんなが参加するむらの創造

5. 豊かな心と学びのむらを創る

背景

人口減に加え「核家族化」「少子化」等の要因により村内の子ども数が激減しており、地域の子ども会、スポーツ少年団等の団体活動への取り組みが困難な状態にあります。

地域の教育力を活用することによる、学校、家庭、地域が一体となった子育ての環境づくりが必要となっており、国際化社会が進む中で、その視野や感覚を身に付けた人材の育成が必要とされています。

また、村の歴史文化を次の世代に語り継ぐ人材も減少しています。収集された文化財の展示、保管の体制が十分ではないことから、体制の整備が必要となっております。特に文化、スポーツ団体活動は人口の減及び高齢化により停滞しており、村の活性化を図るべく振興しているクロスカントリー大会等役員の高齢化も進み、将来的に大会運営に支障をきたすことも懸念されます。

施策の組み立て

施策の組み立ては次のものとします。

豊かな心と学びの
むらを創る

- (1) 自主性と協調性を育む教育環境の整備
- (2) 村の顔となる高校づくり
- (3) 先人が残した歴史文化の継承と活用
- (4) 世代間・地域間交流による生涯学習の推進
- (5) 村民一人ひとりが先生となる人材育成

主な施策の内容

(1) 自主性と協調性を育む教育環境の整備

これからの社会を担ってゆく子どもたちが、豊かな心を持ち健やかに育ち、それぞれの個性と創造性、自主性を身につけられる教育環境を構築します。

- 少子化に対応した教育課程や施設の再編・整備
- 総合学習の充実
- 「地域先生」(人材バンク)の登録・活用など学社融合の充実

- 国際理解教育、情報教育の推進
- リーダー養成のための学習機会の提供

(2) 村の顔となる高等学校づくり

北海道大学中川研究林をはじめ村内外の機関との交流により、森林文化教育や、美術・工芸技術と発想力など専門性を高めるため大学等との連携を図り村の顔となる高等学校づくりを図ります。

- おといねっぶ美術工芸高等学校の特色ある教育の推進
- 総合的な学習時間の有効活用の促進
- 生徒や教職員の制作意欲の啓発
- 高校生の発想を活した、村の景観づくりへの取り組み

(3) 先人が残した歴史文化の継承と活用

先人が残した歴史や文化を尊重し、先人の貴重な知恵や技、資料等を後世に継承します。

- 村の文化、歴史の継承を目的とした異世代間交流の促進
- 文化財の展示保管体制の充実
- 砂澤ビッキや高橋昭五郎等の作品収集による各施設内容の充実

(4) 世代間・地域間交流による生涯学習の推進

生涯学習への関心が高まる中、多様化する住民ニーズを把握し地域の特性を活かした文化、スポーツの振興を図ります。

- 団体活動への支援
- 公共施設の有効活用
- 住民ニーズに対応した文化、スポーツ教室の開催
- おといねっぶ美術工芸高等学校との連携による芸術文化の振興

(5) 村民一人ひとりが先生となる人材育成

村民一人ひとりが匠となり個性や得意分野を地域づくりの場で発揮できるしくみづくりを図ります。

- 広い分野の視点や感覚を身につける“人づくり”の促進
- 村を担う人材の発掘、指導者の養成
- 子どもたちの地域理解と創造性の啓発



6. みんなで築くむらを創る

背景

むらづくりは、その主体である住民自らが考え、行動することにあります。そのためにも、広報紙やインターネット等のメディアの充実や村民への周知、村民の意見、要望の的確な把握が求められます。また、職員が積極的に地域に出て、村民の声が行政施策に反映できる仕組みづくりが求められています。

本村の財政は、地方交付税、国・道補助金、村債が歳入の大部分を占め、特に地方交付税に対する依存度が高いため、一層厳しい財政状況にあります。また、人件費や公債費などの義務的経費をはじめ、施設の維持管理、補修費などが、増加しつつあり、財政圧迫の要因となっています。

今後、質の高い行政サービスを提供していくには、限られた財源の中で、村民ニーズに応えるサービスをいかに効率的かつ合理的に提供できるかが課題となっており、長期的な視野に立った財政計画の立案と経済環境の変化に対応できる財政基盤の強化が求められています。

施策の組み立て

施策の組み立ては次のものとします。

みんなで築くむらを創る	(1) 住民参加・活動への支援
	(2) 協働の仕組みづくり
	(3) 村民への行政サービスの充実
	(4) 効率的・効果的な行財政の運営
	(5) 広域的な連携・協力体制の充実

主な施策の内容

(1) 住民参加・活動への支援

村職員が村民の意見に耳を傾け、村民の多様なニーズの把握を行うとともに、職員が地域活動の一端を担い、活動の育成や活性化の支援を図ります。

- 地区別住民懇談会等の実施
- 行政区地域連絡担当員制度の充実
- 住民発意の活動への参加・支援
- 職員自主研修事業・自主研究事業の活用促進

(2) 協働の仕組みづくり

住民による行政参加と村政運営の公開を目的として情報公開を推進するとともに、村民一人ひとりが積極的に村づくりに参画できる協働の仕組みづくりを図ります。

- 施策等の提案機会の確保
- 村民アンケートによる事業評価の実施
- 女性や青年等幅広い層の各種委員会、審議会等への登用
- 住民提案型むらづくり補助金の活用促進

(3) 村民への行政サービスの充実

職員の資質の向上と意識改革、時代に即応した行政機構への改善を進めるとともに権限移譲事務で効率化を図り、村民の多様なサービスニーズに応える役場づくりを図ります。

- 村掲示板の増設
- 戸籍電算システムの共同導入実施

(4) 効率的・効果的な行財政の運営

事業の集約、再編等による効率的な施策の展開を図るとともに、庁内OA化や経費の節減など音威子府村行政改革大綱に沿って行財政の合理化を推進し、自主自立に向けた行財政運営を図ります。

- 事業の集約、再編等による効率的な施策の展開
- 実施計画の点検・見直し
- 重点プロジェクトの実施
- 財務会計システムの導入実施

(5) 広域的な連携・協力体制の充実

定住自立圏構想により近隣市町村との連携を密にし、施設相互利用による効率化とサービスの向上を図るとともに、IT、環境、福祉などの専門的分野の積極的な研修の参加機会を広げ、時代の的確なニーズを捉える職員の能力向上を図ります。

- 実務者連携会議の開催
- 広域行政に必要な職員研修事業の推進
- 近隣町村との連携による講演会等の開催
- 火葬場の広域利用、ゴミ、し尿等の広域処理
- 特急列車が止まる駅としての拠点機能の強化

第Ⅳ部
重点プロジェクト

1 重点プロジェクトとは

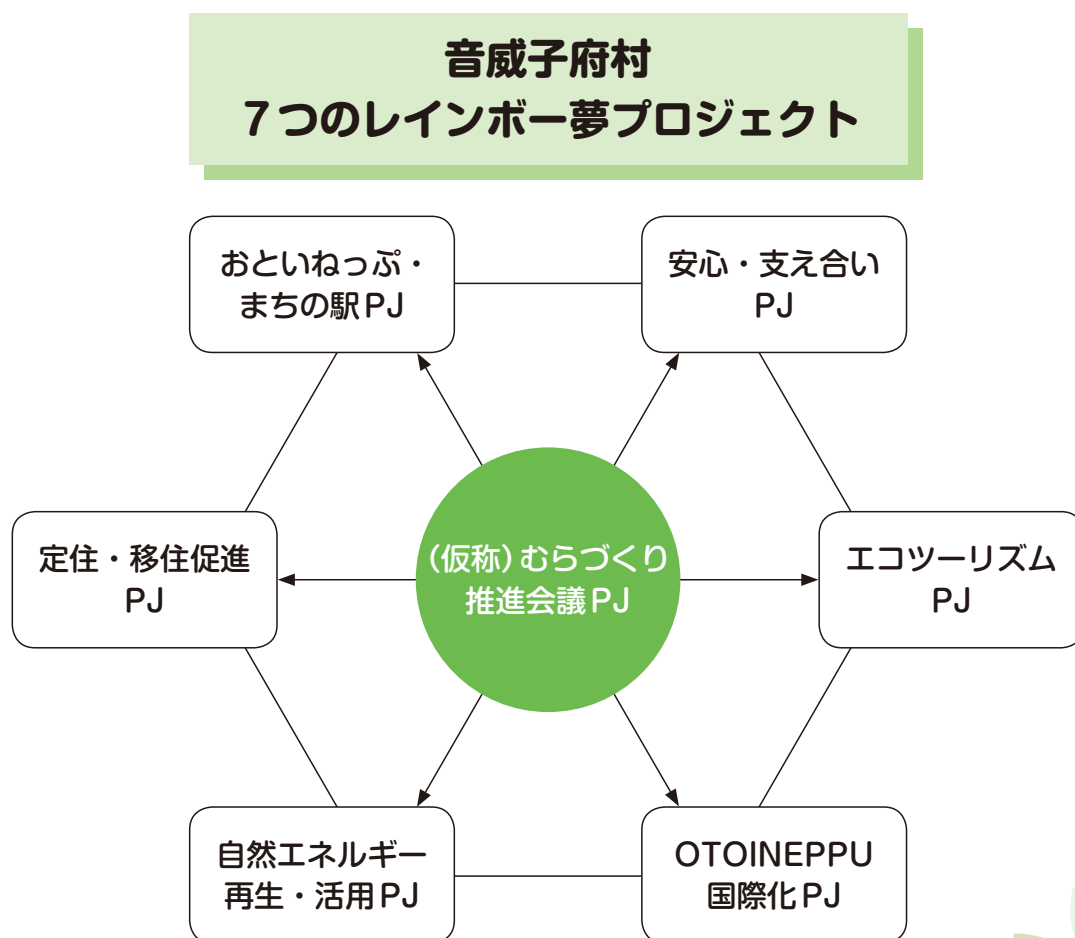
重点プロジェクトとは、将来像を達成していくために、リーディング的（先導的）な役割を果たす事業と位置づけます。

この事業は、単体の施策ではなく、また、単一部門や課・係で取り組むものでもありません。

さらに、行政単独の事業ではなく、住民や民間事業者との協働により推進していくものです。

ここでは、音威子府村を故郷として住民が愛し誇りを持つとともに、個性的で魅力あるむらづくりを推進し、村外から多くの人を受け入れるためのプロジェクトのメニューを掲載しています。

このプロジェクトは7つのプロジェクトで構成しており、『音威子府村7つのレインボー夢プロジェクト』と称して、地域ぐるみで取り組んでいくものです。





2 重点プロジェクトの内容

1 おといねっぷ・まちの駅プロジェクト

狙い

音威子府村の顔づくりと、ここを起点に国道沿線のアート（芸術）ロードとしての景観づくりを進めます。この事業を契機にむら全体の景観形成を図っていくとともに、各種物産販売や情報提供の拠点形成を図り、産業や観光振興との連携拠点、雇用創出の場としていきます。

主な事業

○シンボル広場の整備

- ・ 音威子府村在住の工芸家や高校生の力を活用し、芸術性あるシンボル広場を整備する。
- ・ 国道沿線をアート（芸術）ロードとしての景観演出を図り、音威子府村としてのアピールを図るとともに、国道沿線からシンボル広場までの流れを創る。

○道の駅の魅力化の検討

- ・ 現在の道の駅の在り方を検討する。
- ・ 道の駅を含め、シンボル広場全体を『まちの駅』として捉え、村民とともに、村を訪れる観光客等へのサービス拠点とする。
- ・ 飲食や物販（農産物やその他地場産品）販売の機能を高め、むらのにぎわい拠点としての魅力化を発信するとともに雇用創出を図る。

○（仮称）おといねっぷ i（インフォメーション）の設置

- ・ 道の駅に、音威子府村の各種情報を提供できるインフォメーションセンター（i）を整備する。

2 安心・支え合いプロジェクト

狙い

地域の人々の支え合いを高め、高齢になっても安心して暮らすことができる保健・福祉・医療が連携したむらづくりを進めます。

主な事業

○地域に密着した介護サービス機能の整備

- ・ 介護を要する高齢者が村に住むことができるよう、新たな機能として地域に密着した介護サービスを導入する。

○高齢者にやさしい住環境の整備

- ・ バリアフリー化を含め、高齢者や障がいがあっても住みやすい住まい作りを推進する。

○住民のネットワークによる、見守り体制の整備

- ・ 向こう三軒両隣の住民の繋がりと、町内会・民生委員・老人クラブ等、各種関係機関が見守りの為の情報の共有化を進め、多くの見守りの目と連携システムを整備する。

3 エコツーリズムプロジェクト

狙い

音威子府村の自然環境、農業、工芸等の資源を活かし、通年的に体験型の観光客を受け入れる環境づくりを進めます。

主な事業

○体験プログラムの開発（自然体験、農業体験、工芸体験等）

- ・ 行政関係分野と各種関連機関、近隣市町村の関係諸団体と連携して情報の共有化を図り体験プログラムの可能性を協議し実証する。
- ・ そのプログラムについての情報発信は、インターネット等を通じて行うとともに、「(仮称) おといねっぶ i」で提供する。

○インストラクターの養成

- ・ プログラム開発とともに、体験を指導する人材（インストラクター）の養成を図る。



- ・ まずは、村内の人材を対象に、インストラクターとしての研修を行い、将来的には村外から人材を募集する。

○コーディネート機能の整備

- ・ プログラムの開発～インストラクターの養成～集客のための戦略づくり等、これらの事業はコーディネート機能が必要となり、当面は専門家等のアドバイスを受けながら関係機関が実施し将来的に担い手の育成を図る。
- ・ 将来的には7つ目のプロジェクトで示している「(仮称) むらづくり推進会議」が担っていくことを想定する。

4 OTOINEPPU国際化プロジェクト

狙い

高等学校を介したスウェーデン・レクサンド市との交流を深め、北欧の匠の村と北海道の匠の村との連携による個性化・魅力化を進めます。

主な事業

○小中学生や一般住民の相互交流、先進都市との連携

- ・ 小中学生や一般住民の相互交流を図る。
- ・ 北欧の都市と先進的に交流している市町村と連携し国際的視点や感覚をもって地域の振興を図る。

5 自然エネルギー再生・活用プロジェクト

狙い

木質バイオマス（チップ）等の活用による音威子府型地域循環の自然エネルギーの検討及び実証を進めます。

主な事業

○バイオマスエネルギーの実験的取り組み

- ・ 自然エネルギーへの取り組みとして、豊かな森林資源を活用するため関係機関との連携を強化し「産」「学」「官」「金」共同体制で取り組みを推進する。

- ・ 自然エネルギーの取り組みは、自然資源の有効活用と共に、雇用創出、諸課題の解決に向けその手がかりとする。
 - ▽農業への熱源供給
 - ▽天塩川温泉・学校施設（寄宿舎含）、その他公共施設や公営住宅等への熱源供給
 - ▽一般家庭等への普及促進
 - ▽その他必要とされる施設等への熱源供給

6 定住・移住促進プロジェクト

狙い

人口減を食い止めるとともに、農業就農者の確保や、本村の新たな魅力づくりの一環として芸術家等の招聘や、リタイア組（定年を迎え、本村のような自然観環境豊かなところでの暮らしを望む人たち）等、新たな音威子府村民を受け入れていくための環境整備を進めます。

主な事業

○新規就農者の受け入れ

- ・ 農業従事者の高齢化、後継者不足、遊休農地対策等を含め、外部から新規就農者（既存会社等の参入含）の受け入れ体制を整備する。
- ・ 音威子府村新規就農者受入協議会が中心となり、農地の確保、住まいの確保、営農指導体制の整備と、安心して新規就農者が営農できる環境を整備する。

○二地域居住者の受け入れ

- ・ 現在実施している短期移住体験事業を進展させ、音威子府村の環境を求めてくる人を積極的に受け入れるための体制を整える。
- ・ 対象としては、リタイア組や、IT関係者（通信ネットワークを介して仕事ができ、仕事先は全国あるいは世界規模であるが、住まいは自然環境の良好なところを望む人）等に対し、広くPRしていく。

○アトリエ住宅の整備による芸術家等の受け入れ

- ・ 砂澤ビッキの功績やおといねっぶ美術工芸高等学校の環境を活かして、アーティストの居住促進を図る。
- ・ 高等学校の卒業生が村に戻り、制作活動を続けていけるような環境を整え、「匠」を育くむ風土を創っていく。



7 (仮称) むらづくり推進会議プロジェクト

狙い

1) ～6) までの各種プロジェクトを含め、これからの音威子府村の事業を推進していくために、若手を中心とした検討組織を創設し各種企画検討を行ってもらうとともに、長期的には「(仮称) むらづくり会社」として法人化し、新たな就業の場として育てていきます。

主な事業

○研究グループの立ち上げ

- ・ 「地域おこし協力隊」のメンバーや、各部門や地域の若手のメンバーを中心に、「明日の音威子府村を考える」というテーマのもとに研究グループを立ち上げる。

○(仮称) むらづくり推進会議の設置

- ・ 研究グループを発展させ、本計画で示しているプロジェクト等の新たな取り組みに対する推進母体組織として格上げしていく。

○(仮称) むらづくり会社の設立

- ・ 一定のビジネスとしての見通しがついた段階で、音威子府村の各種事業のコーディネート機能を有する法人組織として立ち上げる。
- ・ この会社は、若者の新たな就業の場としていくとともに、村民の力を結集できるボランティアセンター的な役割も担うものとする。



答 申 書

平成25年2月21日

音威子府村長 佐近 勝 様

第5期音威子府村総合計画
策定審議会 会長 佐藤 均

第5期音威子府村総合計画の策定について

平成24年5月16日付で諮問のありました「第5期音威子府村総合計画」の策定につきまして「第4期音威子府村総合計画」の課題と評価を踏まえ慎重に審議を重ねてきました。

今回の「第5期音威子府村総合計画」の答申にあたっては、目まぐるしく変化する社会情勢への対応のほか、過疎化が進行する本村の現状を認識し、村民と行政が一体となって「明日のむらづくり」に、向こう10年間取り組むべき施策等を、「基本構想」及び「基本計画」として明らかにしてきたところです。

本答申が、村はじめ関係機関・団体等の綿密な連携により、村民の豊かな暮らしを実現するため、行政施策に十分反映されますことをお願いし、答申と致します。

第5期音威子府村総合計画策定審議会

第1部会	産業振興部会	部会長	長尾 宝一
第2部会	保健福祉教育文化部会	部会長	玉田 敬
第3部会	生活環境地域づくり行財政部会	部会長	蓑嶋 哲夫

策定審議会の経過

5月16日	第1回策定審議会 審議委員委嘱 佐近村長より第5期音威子府村総合計画策定諮問
6月20日	第2回策定審議会
7月30日	第3回策定審議会
10月12日	第4回策定審議会
1月17日	第5回策定審議会
2月21日	答申

第I部
序
論

第II部
基本
構想

第III部
基本
計画

第IV部
重点
プロ
ジェ
クト

付
属
資
料



第5期音威子府村総合計画策定審議会審議委員

平成24年5月16日委嘱

会長 佐藤 均

会長職務代理者 原 昭子

産業振興部会	保健福祉教育文化部会	生活環境地域づくり行財政部会
部会長 識見者（農業委員会） 長尾 宝一	部会長 識見者（教育委員） 玉田 敬	部会長 識見者（第1行政区） 蓑嶋 哲夫
副部会長 地区労働組合協議会 今野 裕之	副部会長 村体育協会 成田 悟	副部会長 北海道大学中川研究林 中村 誠宏
JA北はるか音威子府支所 東 良司	民生児童委員協議会 原 昭子	村老人クラブ連合会 長野 忠夫
音威子府村商工会 横山 盛	一般公募 矢野 宮子	村地域安全推進協議会 千見寺恒昭
第2区行政区 織田 勉	村社会福祉協議会 佐藤 均	音威子府村消防団 立川 政俊

第5期音威子府村総合計画策定委員会

役 職	氏 名
策 定 委 員 長	村 長 佐 近 勝
副 策 定 委 員 長	副 村 長 佐 藤 和 之
	教 育 長 高 曾 根 誠
	住 民 課 長 中 河 内 齊
	住 民 課 参 事 長 野 武 一
	経 済 課 長 後 藤 秀 典
	会 計 課 長 赤 川 泰 寛
	教育委員会次長 木 谷 英 幸
	議会事務局長 木 島 勝 明
	消 防 支 署 長 大 竹 政 雄
事 務 局 長	総 務 課 長 鎌 田 真 守
	地 域 振 興 室 長 宗 原 均
事 務 局	主 任 一 岡 政 紀
	主 事 横 山 貴 志

第5期音威子府村総合計画 策定の経過

平成24年

- | | |
|---------------|---|
| 3月29日 | 音威子府村総合計画策定審議会規約の改正 |
| 4月 9日 | 第5期音威子府村総合計画の策定について（起案）
第5期音威子府村総合計画策定審議会審議委員の推薦（起案） |
| 4月11日 | 第5期音威子府村総合計画アンケート内容の確認（起案） |
| 5月 9日 | 第5期音威子府村総合計画アンケート発送
（全世帯・おと高生・事業所） |
| 5月11日 | 第5期音威子府村総合計画第1回策定プロジェクト会議（職員説明）
第5期音威子府村総合計画策定審議会審議委員の委嘱確認（起案） |
| 5月16日 | 第5期音威子府村総合計画第1回策定審議会審議委員会会議（委嘱状交付）
佐近勝村長より策定審議会佐藤均会長へ諮問書交付 |
| 6月13日 | 第5期音威子府村総合計画策定審議会審議委員の交代
（商工会長 阿部洋氏→同副会長 横山盛氏へ） |
| 6月19日 | 第5期音威子府村総合計画説明会開催（主任以下職員対象） |
| 6月20日 | 第2回策定審議会審議委員会会議・策定プロジェクト会議（合同） |
| 7月2日
～6日 | 策定委員会（課長職）ヒヤリング |
| 7月19日 | 第3回策定プロジェクト合同会議（主任以下職員を含） |
| 7月28日
～29日 | 主要施設長・事業所ヒヤリング |
| 7月30日 | 第3回策定審議会審議委員会会議・第4回策定プロジェクト会議（合同） |
| 8月～9月 | 第5期音威子府村総合計画（素案）立案 ゑょうせい総研 |
| 10月12日 | 第4回策定審議会審議委員会会議（各部会別の開催） |
| 12月 4日 | 第5期音威子府村総合計画（素案）提示
策定審議会・策定プロジェクト会議・策定委員会 素案内容検討 |

平成25年

- | | |
|-------|---|
| 1月17日 | 第5回策定審議会審議委員会会議・第5回策定プロジェクト会議
（合同・部会別） |
| 2月15日 | 第5期音威子府村総合計画策定委員会会議（特別職・課長職） |
| 2月21日 | 第5期音威子府村総合計画基本構想・基本計画 答申（佐藤会長） |

第I部
序論

第II部
基本構想

第III部
基本計画

第IV部
重点プロジェクト

付属資料

第5期 音威子府村総合計画策定 プロジェクト会議・策定審議会審議委員合同会議 & プロジェクト会議メンバー及び庁内職員の 合同会議結果のとりまとめ

開催日時：プロジェクト会議・策定審議会審議委員合同会議
平成24年6月20日（水）18：00～
プロジェクト会議メンバー及び庁内職員の合同会議
平成24年7月19日（木）18：30～

6月20日の「プロジェクト会議・策定審議会審議委員合同会議」では様々な意見がだされました。

その意見については、まず大きく次の視点から集約してみました。

- ① 村の特性と問題点・課題に関する意見
- ② 今後の村づくりの基本的な考え方や振興策のアイデアに関する意見

その資料を基に、7月19日に「プロジェクト会議メンバー及び庁内職員の合同会議」を開催し、さらに各種意見を自由にだしあってもらい、その結果を集約したものが本日の資料となっています。

「プロジェクト会議・策定審議会審議委員合同会議」から出た意見は：

「プロジェクト会議メンバー及び庁内職員の合同会議」から

さらに追加で出た意見は：

で表示されています。

平成24年7月30日



村の特性と問題点・課題

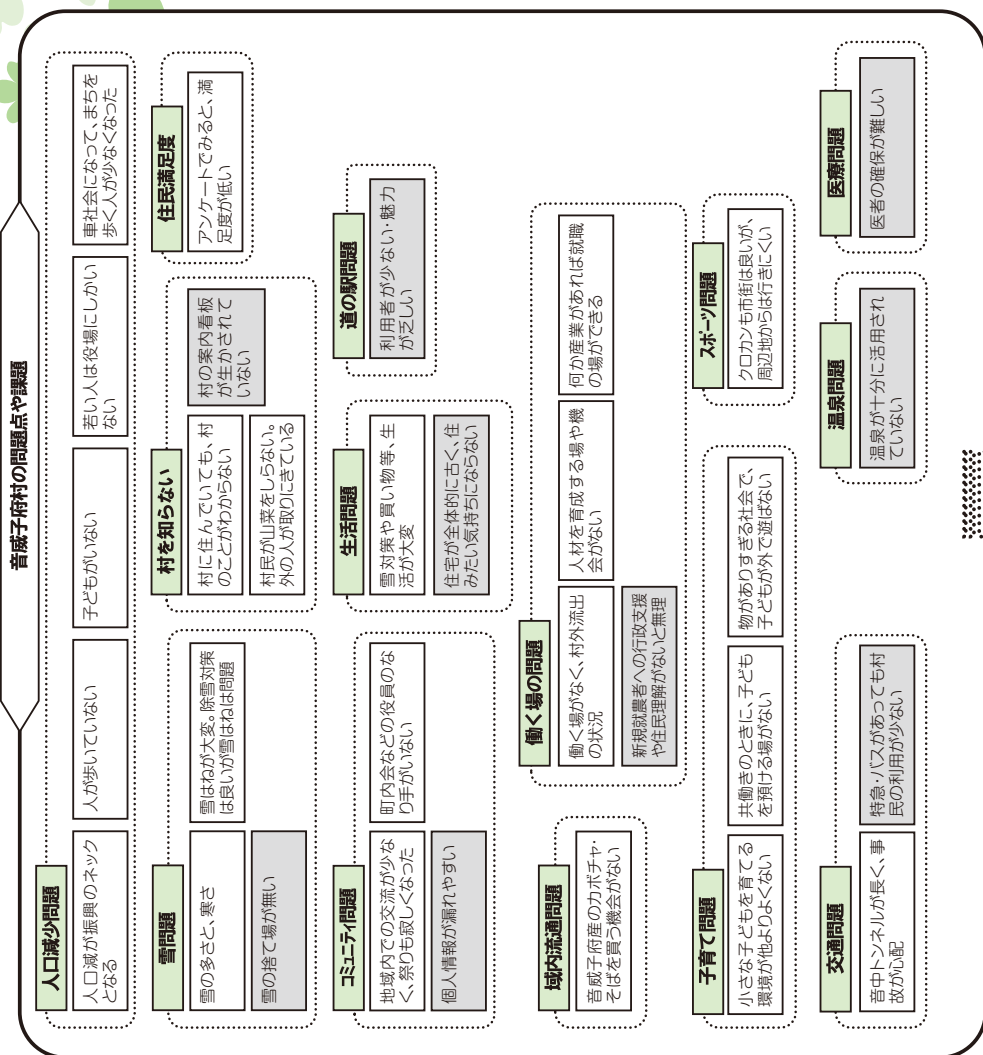
序論

基本構想

基本計画

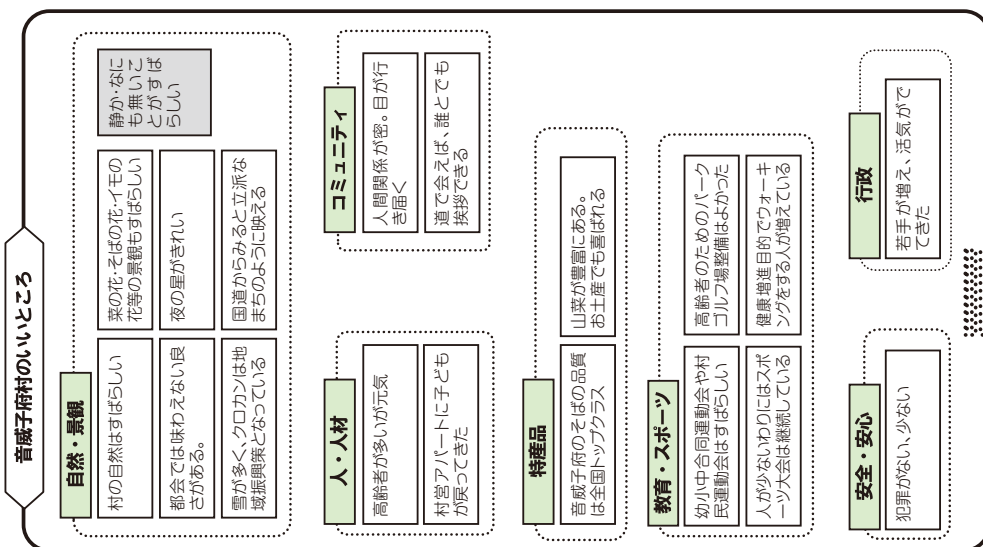
重点プロジェクト

付属資料



★音威子府村の問題点や課題（音威子府村のいいところ（強み）は一方、問題点・課題（弱み）でもある）

- 自然が豊しく、人口が少ない、さらに減少していることが基本的な問題である。
- また、小さい村なのに、村のことを知らない、村のことが知られないという面もみられる。
- 人口が小さいことと連動するが、雇用の場が少ないことが定住を難しくしている。
- 子どもの数も少ないが、子育て環境が必ずしも十分ではない。また、生活をjする上でも、雪問題、買い物問題、医療問題等がある。



★音威子府村のいいところ

- 音威子府村の最大の財産は、自然環境である。
- また、小さい村がゆえに、人の繋がりや強く、強い絆が形成できている、安全な村でもある。また、徐々にではあるが、子どもや若い人の定住もみられる。
- 特産品としては「そば」や豊富な「山菜」があることであろう。

第5期音威子府村総合計画 策定に係わる施策シート資料

本シートは、関連各課・係にご協力いただき、現行総合計画（第4期）の基本計画に掲載されている施策について、その進捗状況や、次期（第5期）計画に掲載したい内容を各課のご判断で記載していただいたものです。

また、その後各課ヒアリングを実施させていただき、各課で内容が重なる施策については統一化させていただき、ヒアリング時点で話題となった内容等についても付記させていただきます。

なお、表中の「進捗」にある表現の内容は次の通りです。（この評価は、平成23年度に庁内で実施したものです。）

完：実施済み 中：現在実施中 未：未実施

また、第5期計画の施策の内容について（基本的には前回と同じ、変更事項には、下線を引いています。）

- ：第4期計画と同じもの
- ：第5期に新たに加えるもの
- *：ヒアリング時点で話題になった事項

平成24年7月



第1章 自然とともに歩み、豊かな暮らしをまもる村づくり

1-1 地域の資源を生かした村づくり

担当課：経済課

第4期総合計画		第5期総合計画	
現状と課題	本村では畑作と酪農が営まれています。が、作業効率の低い土地が多い。高齢化や農業情勢への不安などから、離農跡地等の遊休化が懸念されています。 今後は、農地の利用拡大や担い手の確保、農業関係機関との連携等による合理化や畑作の連携による堆肥の有効活用等により、環境と調和した安全、安心な農業の推進を図る必要があります。 森林資源についても、資源の枯渇や林業生産性の悪化、不在地主の問題もあり、状況に応じた細かい森林施策を行う必要があります。 さらに、産業全般の視点からも、地域の特性を生かした農林業を推進していく必要があります。	＜経済課＞ 本村では畑作と酪農が営まれています。が、作業効率の低い土地が多く、高齢化や農業情勢への不安などから、離農跡地等の遊休化が懸念されています。 今後は、農地の利用拡大や担い手の確保、農業関係機関との連携等による合理化や畑作の連携による堆肥の有効活用等により、環境と調和した安全、安心な農業の推進を図る必要があります。 森林資源についても、資源の枯渇や林業生産性の悪化、不在地主の問題もあり、状況に応じた細かい森林施策を行う必要があります。 さらに、産業全般の視点からも、地域の特性を生かした農林業を推進していく必要があります。	＜経済課＞ 農林業の高収益化、地域の自然環境の保全、担い手の受け入れ・育成などを総合的に進め、農林業の活性化と経営維持を図り農村の社会構造を守ります。
第4期総合計画		第5期総合計画	
施策の推進方向と主な施策		進捗	
定障の強い農林業を育てる（農林業）	○草地林地一体的利用総合整備事業 ○畜産緊急リソース事業、土づくり対策事業 ○特産物導入振興事業 ○自生作物採取に関する啓蒙啓発の実施 ○新規就農者の受け入れ体制の整備	完 完 中・未 未 未	＜経済課＞ 農林業の高収益化、地域の自然環境の保全、担い手の受け入れ・育成などを総合的に進め、農林業の活性化と経営維持を図り農村の社会構造を守ります。 ＜経済課＞ ○特産物導入振興事業 ○自生作物採取に関する啓蒙啓発の実施 ○新規就農者の受け入れ体制の整備 ●土づくり及び土地基盤整備の推進 ●有害鳥獣対策の推進 ●森林経営計画の策定 ●森林整備計画の策定 ●造林・間伐・植林・下刈りの実施
地域の資源を生かした地場産品を開発し、付加価値を高める（商工業）	そばやチャコリなど音威子府の特色ある地場産品の開発やブランド化、販路の拡大を進め、収益の向上を図ります。 ○地場産品の商品化検討 ○地場産品の販売促進 ○人材育成、生産販売体制の整備 ○地域に密着した商業の振興	未 未 未 中・未	＜経済課＞ 商工業者の経営安定化を図り、魅力ある店舗づくりを目指し、商工業の振興を図ります。併せて音威子府村の特色ある地場産品の開発やブランド化を目指し、収益増を図ります。 ＜経済課＞ ○地場産品の商品化検討 ○地場産品の販売促進 ○人材育成、生産販売体制の整備 ○地域に密着した商業の振興 ●「道の駅」を核とした地域振興の推進 ●再生可能エネルギーの実施検討 ●企業誘致の推進
地域の資源や実績ある取り組みを生かし、交流の活性化を図る（地産地消、交流）	地域の資源や取り組みを理解し、村民一人ひとりの誇りある暮らしの再認識と環境づくりへの意識啓発を図ります。 ○農産物等直売所の設置 ○産直等の催事企画・実施 ○体験型慣行に関する実施計画の立案 ○体験交流ガイドの育成 ○村内観光スポット等説明ガイドの作成 ○定期講習会の開設	中 未 未 未 中 完	＜経済課＞ 地域の資源やこれまでの交流を基盤に、一層のまちづくりや人づくりを推進し、地域の活性化を図ります。 ＜経済課＞ ○農産物等直売所の設置 ○産直等の催事企画・実施 ○体験型慣行に関する実施計画の立案 ○体験交流ガイドの育成 ○村内観光スポット等説明ガイドの作成 ●体験型観光の充実及び推進 ●地場産業創出の推進



1-2 安全で安心して暮らすことができる生活環境の整備

担当課：総務課・経済課・住民課・消防支署

第4期総合計画		第5期総合計画	
現状と課題	本村の少子高齢化や人口の減少は、急速に進んでおり、その進行と共に住宅や商店等の老朽ストックの増加、広域バス交通の規制緩和、消防団員の不足等、多様な問題が顕在化しつつあり、暮らしやコミュニティを支える基礎的な機能が課題となつていきます。 また、一方で生涯を住み慣れた土地で、安全に安心して暮らせる生活環境への期待が高まっており、村民の誇りある暮らしを実現する生活環境やその他のニーズへの的確な対応が求められています。	<消防支署> 本村の少子高齢化や人口の減少は、第4期同様に急速に進んでおり、その進行と共に住宅や商店等の老朽ストックの増加、広域バス交通の規制緩和、消防団員の不足等、多様な問題が顕在化しつつあり、暮らしやコミュニティを支える基礎的な機能が課題となつていきます。 また、一方で生涯を住み慣れた土地で、安全・安心して暮らせる生活環境への期待が高まっており、村民の誇りある暮らしを実現する生活環境やその他のニーズへの的確な対応が求められています。	
施策の推進方向と主な施策			
第4期総合計画		第5期総合計画	
災害から村民の命と生活を守る（防災、交通事故対策）	施策推進の狙い	地域における防災や交通安全に対する意識の向上と高齢、福祉社会に対応できる緊急体制の整備を図ります。	<住民課・消防支署> 地域における防災や交通安全に対する意識の向上と高齢、福祉社会に対応できる緊急体制の整備を図ります。
	具体的な事業等	○洪水や地震災害、火災の未然防止 ○避難訓練等の充実 ○交通事故の抑止 ○災害発生時に備えた体制整備と情報通信基盤の充実 ○救急体制の充実 ○消防団員の増強	<総務課・住民課・消防支署> ○洪水や地震災害、火災の未然防止 ○避難訓練等の充実 ○交通事故の抑止 ○災害発生時に備えた体制整備と情報通信基盤の充実 ○救急体制の充実、消防車両の更新 ○消防団員の定数確保、消防車両の更新 *防災計画の見直しが必要なのでは？

第一部
序論

第二部
基本構想

第三部
基本計画

第四部
重点プロジェクト

付属資料



1-2 安全で安心して暮らすことができる生活環境の整備

担当課：総務課・経済課・住民課・消防支署

施策の推進方向と主な施策			
第4期総合計画		第5期総合計画	
施策推進の狙い	進捗	進捗	＜総務課＞ 生活形態や地域特性に対応した住宅施策を推進し、住民ニーズに即した快適な住環境の整備を図ります。 ＜総務課・住民課＞ 人口の減少、高齢化や高度情報化に対応した住宅や施設の整備を検討することにより、より快適な生活環境の創出を図ります。
子供からお年寄りまで、誰もが安心して暮らせる住環境を整える（住宅、住環境）	人口の減少、高齢化や高度情報化に対応した住宅や施設の整備を検討することにより、より快適な生活環境の創出を図ります。 ○まちづくり計画等の策定 ○高齢者に対応した公的住宅の整備 ○個人住宅の高齢化対応の促進 ○快適な住環境の整備 ○Iターン/Uターンの受け入れ態勢の整備 ○（仮称）住まいづくり検討会の設置	未 中・未 中 中 完 完 未	＜総務課・住民課＞ ○高齢者に対応した公的住宅の整備（サービス付き高齢者住宅・見守りつき高齢者住宅等々） ○個人住宅の高齢化対応の促進（住宅改修等の推奨） ●生活基本計画による住環境の整備 ●除雪対策の整備・強化 ＜総務課＞ ○まちづくり計画等の策定 ●公住の新築戸数を増やし、他町からの通勤者をなくす ●高齢者センターの居室（独居老人）増設 ●高齢者住宅の環境整備 ○快適な住環境の整備 ○Iターン/Uターンの受け入れ態勢の整備 ○（仮称）住まいづくり検討会の設置
村民の暮らしを支える基礎的機能の維持・向上を図る（生活基盤）	地域の足となるバス交通や、水道、受信施設、公共施設などの整備を進め、村民の安定した暮らしの実現を図ります。 ○村内巡回バスの運行 ○咲来地区の水道整備 ○TV・ラジオ共同受信施設的全村普及 ○公共施設の計画的改修と補修 ○商店街整備の実施検討	中 完 中 未 未	＜総務課＞ 地域の足となるバス交通や、水道、受信施設、公共施設などの整備を進め、村民の安定した暮らしの実現を図ります。 ＜総務課＞ ○村内巡回バスの運行 ●ラジオ受信施設的全村普及 ○公共施設の計画的改修と補修 ○商店街整備の実施検討 ●地デジ対応が不備なところへの対策事業の項目を ＊水道整備は今後必要（特に上水道）
広域との交流を支える道路・交通ネットワークを整える（広域交通）	村民の必要性に応じた都市との多様な交流が容易に選択可能となるよう広域の道路・交通ネットワークの確立を図ります。 ○国道40号音威子府バイパス、国道275号整備の早期着工 ○鉄道やバス交通の運行に関する協議会の継続 ○駅前広場など交通結節機能整備	中 中 中	＜総務課＞ 村民の日常生活や経済活動を支える道路網を整備し、広域交通ネットワークの確立を図ります。 ＜総務課＞ 村民の必要性に応じた都市との多様な交流が容易に選択可能となるよう広域の道路・交通ネットワークの確立を図ります。 ＜総務課＞ ○鉄道やバス交通の運行に関する協議会の継続 ○国道40号音威子府バイパス及び国道275号整備の早期活用開始 ●公共交通機関の確保及び整備 ＜総務課＞ バイパスの項目を削り、これに関連する新たな事業の項目を 他の2項目は継続が疑問あり ＊バイパス整備に伴い除雪センター建設と併せて道の駅及び鉄道の駅との再編を検討する必要があるのでは？



1-3 森、川、大地と調和した暮らしの実現

担当課：経済課・住民課・総務課

第4期総合計画		第5期総合計画	
現状と課題	本村のシンボルともいえる森林と天塩川は、その多面的機能の発揮により、長い間村民の営みに大きな恩恵をもたらし続けてきました。 しかし一方で、村民は豊かな自然がごく身近にあるため、これらの保全や活用への意識や対応が十分とはいえない状況にあります。 今後は、森林や河川の適切な管理、暮らしの中での環境保全運動、森や川と共に生きる本村にふさわしい景観づくりなど多様な取り組みを推進することにより、村民一人ひとりの意識の高揚を図り、豊かな自然を次の世代に引き継ぐことが求められます。	<経済課・住民課> 本村のシンボルともいえる森林と天塩川は、その多面的機能により、長い間村民の営みに大きな恩恵をもたらし続けてきました。 しかし一方で、村民は豊かな自然がごく身近にあるため、これらの保全や活用への意識や対応が十分とはいえないません。 今後は、森林や河川を適切に管理する中から、豊かな自然環境との共生をめざし、自ら手で守っていく意識や風土を創り上げていくことが大切であり、それらを次の世代に引き継ぐことが求められます。	
施策の推進方向と主な施策			
第4期総合計画		第5期総合計画	
豊かな森と天塩川の自然環境を守り、次世代に引き継ぐ（自然保全）	施策推進の狙い	森林や河川が有する公益的機能の発揮により、国土の保全や環境との共生、資源の循環など、豊かな自然やその恩恵の維持を図ります。	<経済課> 森林や河川が有する多面的機能により、国土の保全や環境との共生、資源の循環など、豊かな自然からの恩恵の維持を図ります。
	具体的な事業等	○森林整備計画の策定（1-1へ移動） ○治山計画の策定 ○森林生育状況等の調査 ○造林・間伐・植林・下刈りの実施（1-1へ移動） ○家庭雑排水などの流入抑制の徹底	<経済課> ○治山計画の策定 ●河川愛護運動の推進 ●森林や河川などの魚類、動植物や自然環境の適切な保全
	施策推進の狙い	環境への負荷を軽減する暮らしの運動やバイオ技術開発を進め、自然の持つ生命力や生態系の維持を図ります。	<住民課> 環境への負荷を軽減する暮らしの運動やバイオ技術開発を進め、自然の持つ生命力や生態系の維持を図ります。
森とともに生きる美しい村をつくる（景観、生活環境）	具体的な事業等	○分別収集品目の追加 ○レジ袋の減量化推進 ○バイオ技術の実用化 ○緑の消費運動の普及 ○環境に対する低付加商品の推奨	<住民課> ○分別収集品目の追加 ○レジ袋の減量化推進 ○バイオ技術の実用化 ○緑の消費運動の普及 ○環境に対する低付加商品の推奨 * チップを活かした新たな再生エネルギー的な展開は考えられるのではないかな？
	施策推進の狙い	景観や公園の検討・整備を通して、村民とともに美しい森や水辺とともに生きる村の魅力を具体化を図ります。	<経済課> 村民が森や水辺とともに生きる美しい村づくりに向け、良好な自然環境の維持及び推進を図ります。 <住民課> 景観や公園の検討・整備を通して、村民とともに美しい森や水辺とともに生きる村の魅力を具体化を図ります。
	具体的な事業等	○「美しい村づくり検討会」の設置 ○水辺空間、公園の整備（島見川、中島） ○改修計画の検討と維持管理の徹底 ○不法投棄などの取り締まり強化 ○廃屋、廃車、廃農機具等の撤去 ○村有林や川を生かした遊歩道等の整備	<経済課・住民課> ○水辺空間、公園の整備（島見川、中島、温泉公園） ○改修計画の検討と維持管理の徹底 ○不法投棄などの取り締まり強化 ○廃屋、廃車、廃農機具等の撤去 ○村有林や川を生かした遊歩道等の整備

序論

基本構想

基本計画

重点プロジェクト

付属資料



第2章 先人の知恵を引き継ぎ、次代を担う新たな匠を育む村づくり

2-1 先人の知恵と経験を学び、知識と技をたかめる村づくり

担当課：総務課・教育委員会

第4期総合計画		第5期総合計画	
現状と課題	本村では、少子高齢化の進展とともに高齢者が増加しており、先人が残した歴史や文化を学び、語り継ぐ機会も徐々に減少しつつあります。 また、クロスカントリー大会や芸術文化活動など多様な村民の交流機会がありながら、豊富な知識・技能を有する高齢者や技術者、指導者と才能あふれる村民との関係づくりが十分図られていないのが現状となっています。 今後は、先人が築いてきた本村の歴史や文化を次世代に継承するための形に残すとともに、村民一人ひとりが自らの得意分野の匠となって人材の育成や村づくりを行えるような、小さな村ならではのしくみづくりに取り組む必要があります。	<教育委員会> ・人口の流出、自然減と高齢化の進行により、村の歴史文化を次の世代に語り継ぐ人材の減少している。 ・人口の各世代の人数にバラツキがあり、村の歴史文化の円滑な継承に影響が出ている。 ・収集された文化財の展示、保管の体制が十分ではないことから、体制の整備が必要となっている。 ・人口の減及び高齢化により、文化、スポーツ団体活動が停滞しており、特に文化協会は休会状態となっている。 ・クロスカントリー大会等役員の高齢化が進み、将来的に大会運営に支障をきたすことが懸念される。	第5期総合計画
施策の推進方向と主な施策			
第4期総合計画		第5期総合計画	
施策推進の狙い	進捗	施策推進の狙い	進捗
先人が残した貴重な知恵や歴史文化を次の世代に引き継ぐ（歴史、文化）	先人が残した歴史や文化を尊重し、先人の貴重な知恵や技、資料等を後世に継承します。 ○「エコ・ミュージアムおさしまセンター」の整備 ○文化財保護条例の策定 ○史跡の収集・管理の実施 ○高齢者学級「匠」塾の充実強化	<教育委員会> 先人が残した歴史や文化を尊重し、先人の貴重な知恵や技、資料等を後世に継承します。 (第4期総合計画踏襲) <教育委員会> ○高齢者学級「匠」塾の充実強化（現在は休塾） ●村の文化、歴史の継承を目的とした異世代間交流の促進 ●文化財の展示保管体制の充実 *「エコミュージアムおさしまセンター」の整備」の扱いはどうするか？ 文化財保護条例の策定（平成8年3月条例第6号にて策定済のため削除）	第5期総合計画
世代間の交流や村外の人との交流を深め、将来に引き継ぐ新しい文化を育む（生涯学習、スポーツ振興）	これまで村民が育んできた多様な交流の蓄積を生かし、国内外を視野に入れた文化、スポーツの新たな展開を図ります。 ○FIS コンチネンタル大会等国際大会の誘致準備 ○団体活動への支援、指導者の養成 ○歩くスキーの無料貸し出しの実施 ○施設の有効利用の促進 ○姉妹村との積極的な交流の促進	<教育委員会> 生涯学習への関心が高まる中、多様化する住民ニーズを把握し地域の特性を生かした文化、スポーツの振興を図る。 <教育委員会> ○団体活動への支援 ●公共施設の有効活用 ●住民ニーズに対応した文化、スポーツ教室の開催 ●おとといねっが美術工芸高等学校との連携による芸術文化の振興 *新たな姉妹都市交流的な事は考えなくていいのか？ *FISの国際大会を活用する方策はないのか？ FIS コンチネンタル大会等国際大会の誘致準備（誘致済みのため削除） 姉妹村との積極的な交流の促進（上之保村が合併となったため交流事業を中止）	第5期総合計画
地域全体が先生となり人材を育てる（人材育成）	村民一人ひとりが匠となり個性や得意分野を地域づくりの場で発揮できるしくみづくりを図ります。 ○「人づくり振興基金」の活用促進 ○村を担う人材の発掘、指導者の養成 ○子供達の地域理解と創造性の啓発	<教育委員会> 村民一人ひとりが匠となり個性や得意分野を地域づくりの場で発揮できるしくみづくりを図ります。 <教育委員会・総務課> ○「人づくり振興基金」の活用促進 ○村を担う人材の発掘、指導者の養成 ○子供達の地域理解と創造性の啓発	第5期総合計画

2-2 子どもからお年寄りまでたがいに支え合い、高めあう村づくり

担当課：住民課

第4期総合計画		第5期総合計画	
現状と課題	本村では、少子高齢化の進展が進み、介護や地域の協力を必要とする高齢者が着実に見込まれることから、生活習慣の改善や病気や老化の予防など、村民の自立を促すしくみや体制づくりが求められます。 一方、まだまだ現役で働ける元気な高齢者も着実に増加しており、これらの村民が単に余暇を過ごすだけでなく、村の一員として社会に貢献できる活躍の場の提供が求められます。 また、少子対策として、働くお母さんでも安心して子育てできる環境づくりも図る必要があります。	<住民課> 本村では、少子高齢化の進展が進み、介護や地域の協力を必要とする高齢者が着実に見込まれることから、生活習慣の改善や病気や老化の予防など、村民の自立を促すしくみや体制づくりが求められます。 一方、まだまだ現役で働ける元気な高齢者も着実に増加しており、これらの村民が単に余暇を過ごすだけでなく、村の一員として社会に貢献できる活躍の場の提供が求められます。 また、少子対策として、働くお母さんでも安心して子育てできる環境づくりも図る必要があります。	
施策の推進方向と主な施策			
第4期総合計画		第5期総合計画	
村民が自らの健康を守り、高めるためのしくみや体制を整える（保健、医療）	施策推進の狙い 健康や医療に関する指導・支援体制やしくみの充実を図り、村民の『自立』を促すサービス供給体制への転換を図ります。	中	<住民課> 健康や医療に関する指導・支援体制やしくみの充実を図り、村民の『自立』を促すサービス供給体制への転換を図ります。
	具体的な事業等 ○村民一人ひとりの生活習慣への関心の啓発 ○住民健康相談事業の実施 ○生活習慣病予防教室の開催 ○総合健康管理システム事業の実施 ○音威子府診療所の充実	中 中 中 中 中	<住民課> ○村民一人ひとりの生活習慣への関心の啓発 ○住民健康相談事業の実施 ○生活習慣病予防教室の開催 ○総合健康管理システム事業の実施 ○音威子府診療所の充実（特に人的対応） ●各種検診（特定検診・がん検診等）事業の充実
	施策推進の狙い 高齢者や障害者を含む全ての村民が、安心して暮らせ、地域社会の一員として生きがいをもって村づくりに関わられるしくみづくりを図ります。		<住民課> 高齢者や障害者を含む全ての村民が、安心して暮らせ、地域社会の一員として生きがいをもって村づくりに関わられるしくみづくりを図ります。
	具体的な事業等 ○ホームヘルプサービス等在宅サービスの充実 ○高齢者事業団の設立 ○福祉ボランティア、ヘルパーの育成	中 未 中	<住民課> ○ホームヘルプサービス等在宅サービスの充実 ○高齢者事業団の設立 ○福祉ボランティア、ヘルパーの育成 ●身体機能の向上・回復をめざした訓練・教室等の充実
働くお母さんでも安心して子育てできる環境を整える（母子）	施策推進の狙い 共働きの家庭でも安心して子育てが出来る保育体制の整備と児童の健全育成を進めるための支援体制の充実を図ります。		<住民課> 共働きの家庭でも安心して子育てが出来る保育体制の整備と児童の健全育成を進めるための支援体制の充実を図ります。
	具体的な事業等 ○保育ママ制度の促進 ○子育て支援ネットワークの設置検討	未 未	<住民課> ○保育ママ制度の促進 ○子育て支援ネットワークの設置検討



2-3 地域の中で子どもたちを我が子のように見守り才能を伸ばす村づくり

担当課：住民課・教育委員会

序論

基本構想

基本計画

重点プロジェクト

付属資料

第4期総合計画		第5期総合計画	
現状と課題	本村は、小さい村がゆえに、子どもたちと村民がお互いに顔の見える関係にあり、子どもたちは地域の中で我が子のように見守られて育っています。 一方で、本村の児童生徒の実態として、明るく素直である反面、自分の考えを表現する力の不足などが指摘されています。 これからの子どもたちに必要とされているのは、国際理解や判断力、自然やふるさとに誇りを持てる感性など国際人としての資質であり、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、解決し、表現する資質の研鑽が課題となっています。	＜教育委員会＞ ・人口減に加え「核家族化」「少子化」等の要因により村内の子どもの数が激減しており、地域の子どもも、スポーツ少年団等の団体活動への取組みが困難な状態にある。 ・地域の教育力を活用することによる、学校、家庭、地域が一体となった子育ての環境づくりが必要となっている。 ・国際化社会が進む中で、国際的な視野や感覚を身に付けた人材の育成が必要とされている。	第5期総合計画 ＜教育委員会＞ これからの社会を担ってゆく子どもたちが、豊かな心を持ち健やかに育ち、それぞれの個性と創造性、自主性を身につけられる教育環境を構築します。 ＜教育委員会＞ ○少子化に対応した教育課程や施設の再編・整備 ○総合学習の充実 ○「地域先生」（人材バンク）の登録・活用など学社融合の充実 ○国際理解、情報教育の推進 ●リーダー養成のための学習機会の提供 * 高校の交流先であるスウェーデンのレクサンドとの交流の活用方策はないか？ 山村留学制度の維持（制度実施の体制が整わないことから削除） ＜教育委員会＞ 北大中川研究林や村内施設との交流により、森林文化教育や、美術・工芸技術の専門性を高め、村の顔となる高校づくりを図ります。 ＜教育委員会＞ ○おといねっぶ美術工芸高校の充実 ○総合的な学習時間の有効活用の促進 ○生徒や教職員の制作の意欲の啓発 * 高校卒業者の受け入れ先の確保が必要ではないか？ ＜教育委員会＞ 核家族化、共働き家庭が増加する中、家庭や地域保育所や教育機関と連携した幼児教育に体制確立 ＜教育委員会＞ ●子育てサークルの育成と支援 ●リーダー養成のための学習機会の提供 ●保健福祉センターとの連携強化 ●親子ふれあい活動の推進 ＜住民課＞ ・幼児センターの跡地保育所の通年開設→削除（平成24年度から通年化実施） * 幼保一元化的なことは検討を要するのではないか？
施策の推進方向と主な施策			
第4期総合計画		第5期総合計画	
施策推進の狙い	子どもや親、地域の人々がお互いに顔が見える、小さな村がゆえの関係を生かし、豊かな人間形成に必要な義務教育と地域教育との融合を図ります。	中	中
自主性や協調性を育み、心豊かな健康な子どもを育てる（義務教育）	○少子化に対応した教育課程や施設再編・整備 ○総合学習の充実 ○「地域先生」（人材バンク）の登録・活用など学社融合の充実 ○国際理解・情報教育の推進 ○山村留学制度の維持 ○教育環境等の整備	中	中
地域に根ざし、個人の技術や技能を高め、教育の充実に取り組む（高校）	北大中川研究林や村内施設との交流により、森林文化教育や、美術・工芸技術の専門性を高め、村の顔となる高校づくりを図ります。 ○おといねっぶ美術工芸高校の充実 ○総合的な学習時間の有効活用の促進 ○生徒や教職員の制作意欲の啓発	中	中
のびのびと遊び、感性豊かな子どもを育てる（幼児教育）	幼児一人ひとりの個性に即したきめ細かな教育を実践し、創造性豊かな人格形成を図ります。 ○幼児センターの跡地保育所の通年開設 ○のびのび遊べる環境づくり	未	中

第3章 地域と行政が協働で進める村づくり

3-1 村民と行政がともに考え行動する村づくり

担当課：総務課・教育委員会

第4期総合計画		第5期総合計画	
現状と課題	村づくりは、その主体である住民自らが考え、行動することにあります。村づくりの推進・実施にあたっては、村民一人ひとりが行政と情報を共有化し、自らの問題として参画し、行政と協働の村づくりを進める必要があります。そのために、広報紙やインターネット等のメディアの充実や村民への周知、村民の意見、要望の確かな把握が求められます。職員が積極的に地域に出て住民と直接、忌憚のない意見や提言を受ける体制の充実を図るなど、村民の声が行政施策に反映できるしくみづくりが求められています。	<総務課> 村づくりは、その主体である住民自らが考え、行動することにあります。村づくりの推進・実施にあたっては、村民一人ひとりが行政と情報を共有化し、自らの問題として参画し、行政と協働の村づくりを進める必要があります。そのために、広報紙やインターネット等のメディアの充実や村民への周知、村民の意見、要望の確かな把握が求められます。職員が積極的に地域に出て住民と直接、忌憚のない意見や提言を受ける体制の充実を図るなど、村民の声が行政施策に反映できるしくみづくりが求められています。	<総務課> 村づくりは、その主体である住民自らが考え、行動することにあります。村づくりの推進・実施にあたっては、村民一人ひとりが行政と情報を共有化し、自らの問題として参画し、行政と協働の村づくりを進める必要があります。そのために、広報紙やインターネット等のメディアの充実や村民への周知、村民の意見、要望の確かな把握が求められます。職員が積極的に地域に出て住民と直接、忌憚のない意見や提言を受ける体制の充実を図るなど、村民の声が行政施策に反映できるしくみづくりが求められています。
施策の推進方向と主な施策			
第4期総合計画		第5期総合計画	
村民に地域や村づくりに関する情報を分かりやすく伝える(情報化)	施策推進の狙い	村民誰もが親しめる広報紙の充実、高度情報化社会に対応したホームページの活用を促進し、村民により身近な広報活動の展開を図ります。	<総務課> 村民誰もが親しめる広報紙の充実、高度情報化社会に対応したホームページの活用を促進し、村民により身近な広報活動の展開を図ります。
	具体的な事業等	○村のホームページの充実 ○村の広報紙の充実 ○パソコンの普及促進 ○パソコン教室の開催	<教育委員> ・パソコンの普及促進と、教室の開催は不要 <総務課> <削除> ○パソコン教室の開催 個々のパソコン技術の向上により、事業から適用除外してはどうか。
村民が積極的に外へ出て、村民の意見に耳を傾け、向き合う(住民参加・活動支援)	施策推進の狙い	村職員が村民の意見に耳を傾ける機会をつくり、村民の多様なニーズの把握を行うとともに、職員が地域活動の一端を担い、活動の育成や活性化の支援を図ります。	<総務課> 村職員が村民の意見に耳を傾ける機会をつくり、村民の多様なニーズの把握を行うとともに、職員が地域活動の一端を担い、活動の育成や活性化の支援を図ります。
	具体的な事業等	○職員による出前行政報告会、意見交換会の実施 ○地区別懇談会の実施 ○イベントなど村民発意の活動への参加・支援	<総務課> ○地区別住民懇談会の実施 ○行政区地域連絡担当員制度の充実 ●住民発意の活動への参加・支援 *住民といかに向き合い対話の中から小さなことでも取り組んでいくことが必要なのでは？
村民の意見や提案が村民の施策に積極的に反映する(協働のしくみ、評価)	施策推進の狙い	住民による行政参加と村政運営の公開を目的として情報公開を推進するとともに、村民一人ひとりが積極的に村づくりに参画できる協働のしくみづくりを図ります。	<総務課> 住民による行政参加と村政運営の公開を目的として情報公開を推進するとともに、村民一人ひとりが積極的に村づくりに参画できる協働のしくみづくりを図ります。
	具体的な事業等	○施策等の提案機会の確保 ○村民アンケートによる事業評価の実施 ○女性や青年等幅広い層の各種委員会、審議会等への登用 ○行政区の見直し、町内会組織の再編	<総務課> ○施策等の提案機会の確保 ○村民アンケートによる事業評価の実施 ○女性や青年等幅広い層の各種委員会、審議会等への登用 ・行政区の見直し、町内会組織の再編(削除)

序論

基本構想

基本計画

重点プロジェクト

付属資料



3-2 質の高いサービスの提供、むだのない行財政運営を進める村づくり

担当課：総務課・住民課

第4期総合計画		第5期総合計画	
現状と課題	本村の財政は、地方交付税、国・道補助金、村債が収入の大部分を占め、特に地方交付税に対する依存度が高いため、近年の地方交付税の減少とともに一層厳しい財政状況にあります。	本村の財政は、地方交付税、国・道補助金、村債が収入の大部分を占め、特に地方交付税に対する依存度が高いため、近年の地方交付税の減少とともに一層厳しい財政状況にあります。	＜総務課＞
	一方、人件費や公債費などの義務的経費をはじめ、施設の維持管理、補修費などが、増加しつつあり、財政圧迫の要因となっています。		
	今後、質の高い行政サービスを提供していくには、限られた財源のなかで、村民ニーズにこたえるサービスをいかに効率的かつ合理的に提供できるかが課題となっており、長期的な視野に立った財政計画の立案と経済環境の変化に対応できる財政基盤の強化が求められています。		
施策の推進方向と主な施策			
質の高い行政サービスの維持・向上のための広域的な連携・協力体制を充実する（広域行政）	施策推進の狙い	近隣市町村との連携により、施設相互利用による効率化とサービスの向上を図るとともに、IT、環境、福祉などの専門的分野の積極的な研修の参加機会を広げ、時代的ニーズを捉える職員の能力向上を図ります。	＜住民課＞ 近隣市町村との連携により、施設相互利用による効率化とサービスの向上を図るとともに、IT、環境、福祉などの専門的分野の積極的な研修の参加機会を広げ、時代的ニーズを捉える職員の能力向上を図ります。
	具体的な事業等	○実務者連携会議の開催 ○職員自主研修事業の推進 ○近隣町村との連携による講演会等の開催 ○びんが苑苑の利用促進 ○ゴミ、し尿などの広域処理 ○地域の足を守る広域的取り組みの推進 ○給食サービスへの広域連携の検討	○総務課・住民課＞ ○実務者連携会議の開催 ○職員（自主：別る）研修事業の推進 ○近隣町村との連携による講演会等の開催 ○びんが苑苑の利用促進 ○ゴミ、し尿などの広域処理 * 給食サービス広域連携は実質的に難しいだろう * 特急が止まる駅で広域的な利用がある。この特性を活かすべきであろう
	施策推進の狙い	事業の集約、再編等による効率的な施策の展開を図るとともに、庁内O A化や経費の節減など苦慮子府村行政改革大綱に沿って行財政の合理化を推進し、自主自立に向けた行財政運営を図ります。	＜総務課＞ 事業の集約、再編等による効率的な施策の展開を図るとともに、庁内O A化や経費の節減など苦慮子府村行政改革大綱に沿って行財政の合理化を推進し、自主自立に向けた行財政運営を図ります。
	具体的な事業等	○事業の集約、再編等による効率的な施策の展開 ○実施計画の点検・見直し ○重点プロジェクトの実施 ○庁内O A化整備事業	○総務課＞ ○事業の集約、再編等による効率的な施策の展開 ○実施計画の点検・見直し ○重点プロジェクトの実施 ・ 庁内O A化の整備充実は削除
より一層便利な村民サービスの提供（行政業務、行政サービス）	施策推進の狙い	職員の資質の向上と意識改革、時代に即応した行政機構への改善を進めるとともに窓口事務の迅速化を図り、村民の多様なサービスニーズに応える役場づくりを図ります。	＜総務課＞ 職員の資質の向上と意識改革、時代に即応した行政機構への改善を進めるとともに窓口事務の迅速化を図り、村民の多様なサービスニーズに応える役場づくりを図ります。
	具体的な事業等	○窓口業務O A化（システム導入）推進 ○相互情報交換システム整備事業 ○村揭示板の増設	○総務課＞ ○窓口業務O A化（システム導入）推進 ○村揭示板の増設 ・ 相互情報交換システム整備事業は削除 * 今後戸籍のシステム化は検討する必要があるのでは

第5期 音威子府村総合計画

発 行 音威子府村
〒098-2501
北海道中川郡音威子府村字音威子府444-1
TEL (01656) 5-3311 FAX (01656) 5-3837
MAIL tiikishinkou@vill.otoinepu.hokkaido.jp
URL <http://www.vill.otoinepu.hokkaido.jp>

発行日 平成25年3月

印 刷 株式会社 **ぎょうせい**

音威子府村村民憲章

わたしたちは、緑こい山なみと水豊かな天塩川のもと、交通の要衝として発展してきた音威子府の村民です。

たくましい開拓精神を受けつぎ、より住みよく豊かなまちをつくるためにこの憲章をかかげ、村民としての自覚と責任をもってその実行に努めましょう。

1. 心をみがき、からだをきたえ、たのしいまちをつくりましょう。
1. 仕事にはげみ、生産を高め、豊かなまちをつくりましょう。
1. きまりを守り、親切をつくし、明るいまちをつくりましょう。
1. 自然をいかし、環境をととのえ、美しいまちをつくりましょう。
1. 文化を高め、郷土を愛し、平和なまちをつくりましょう。

(昭和47年9月30日制定)

むらの木・花



アカエゾマツ



シバザクラ



村章

全体は雪の結晶で、太陽をかたどった円の中に「音」の字を配しています。六つの五角形はサイロで、酪農による発展を表現しています。



第5期 音威子府村総合計画

〒098-2501
北海道中川郡音威子府村字音威子府444-1
TEL(01656)5-3311 FAX(01656)5-3837
ホームページアドレス <http://www.vill.otoinneppu.hokkaido.jp>
MAIL tiikishinkou@vill.otoinneppu.hokkaido.jp

